

【表紙】

| | |
|------------|----------------------------------|
| 【提出書類】 | 有価証券報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条第1項 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 |
| 【提出日】 | 平成22年6月30日 |
| 【事業年度】 | 第12期（自平成21年4月1日至平成22年3月31日） |
| 【会社名】 | 株式会社ビジネス・ブレイクスルー |
| 【英訳名】 | BUSINESS BREAKTHROUGH, INC. |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 大前 研一 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都千代田区六番町1番7号 |
| 【電話番号】 | 03-5860-5530 |
| 【事務連絡者氏名】 | 代表取締役副社長 伊藤 泰史 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 東京都千代田区六番町1番7号 |
| 【電話番号】 | 03-5860-5530 |
| 【事務連絡者氏名】 | 代表取締役副社長 伊藤 泰史 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

提出会社の経営指標等

| 回次 決算年月 | 第8期 平成18年3月 | 第9期 平成19年3月 | 第10期 平成20年3月 | 第11期 平成21年3月 | 第12期 平成22年3月 |
|-------------------------|----------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 売上高 (千円) | 1,643,171 | 1,897,242 | 2,113,589 | 1,992,043 | 1,926,406 |
| 経常利益 (千円) | 216,931 | 233,534 | 266,682 | 212,499 | 279,314 |
| 当期純利益 (千円) | 185,820 | 134,125 | 152,392 | 120,080 | 161,418 |
| 持分法を適用した場合の投資利益 (千円) | - | - | - | - | - |
| 資本金 (千円) | 1,379,150 | 1,405,275 | 1,460,025 | 1,477,525 | 1,477,525 |
| 発行済株式総数 (株) | 59,414 | 60,459 | 62,649 | 63,349 | 63,349 |
| 純資産額 (千円) | 2,271,694 | 2,458,070 | 2,683,108 | 2,713,109 | 2,744,796 |
| 総資産額 (千円) | 2,690,198 | 2,956,393 | 3,211,734 | 3,160,407 | 3,402,064 |
| 1株当たり純資産額 (円) | 38,239.51 | 40,661.53 | 43,246.65 | 44,196.08 | 46,079.92 |
| 1株当たり配当額 (円) | - | - | 1,000 | 750 | 1,000 |
| (うち1株当たり中間配当額) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) |
| 1株当たり当期純利益金額 (円) | 3,746.64 | 2,235.23 | 2,472.59 | 1,942.66 | 2,675.97 |
| 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円) | 2,931.72 | 1,929.93 | 2,361.41 | - | - |
| 自己資本比率 (%) | 84.4 | 83.1 | 83.5 | 85.8 | 80.7 |
| 自己資本利益率 (%) | 13.0 | 5.7 | 5.9 | 4.5 | 5.9 |
| 株価収益率 (倍) | 69.9 | 46.1 | 18.9 | 15.8 | 18.3 |
| 配当性向 (%) | - | - | 40.4 | 38.6 | 37.4 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー (千円) | 294,918 | 336,694 | 158,565 | 114,214 | 352,583 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー (千円) | 103,081 | 185,353 | 68,088 | 86,471 | 88,581 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー (千円) | 1,474,920 | 51,164 | 70,651 | 88,663 | 133,531 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 (千円) | 2,107,051 | 2,309,337 | 2,470,256 | 2,438,208 | 2,616,817 |
| 従業員数 (人) | 41 | 51 | 58 | 61 | 67 |
| (外、平均臨時雇用者数) | (16) | (16) | (13) | (17) | (13) |

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第8期における新株式の発行は以下の通りであり、その結果発行済株式総数は59,414株となりました。

平成17年10月31日付をもって普通株式1株につき5株の株式分割を実施(増加株式数42,651.2株)。

平成17年12月12日に公募増資による新株式の発行を実施(増加株式数5,000株)。

新株引受権及び新株予約権の行使(増加株式数3,106株)。

3 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社を有していないため、記載しておりません。

4 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第11期及び第12期については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5 第10期の1株当たり配当額1,000円は、創立10周年記念配当250円を含んでおります。

6 第12期の1株当たり配当額1,000円は、ビジネス・ブレイクスルー大学経営学部開学記念配当200円を含んでおります。

7 従業員数は、就業人員数で表示しており、臨時雇用者数は年間の平均人員を()内に外数で記載しております。

2【沿革】

| 年月 | 事項 |
|----------|--|
| 平成10年4月 | 東京都千代田区に、遠隔型マネジメント教育事業を目的として当社設立（資本金10,000千円） |
| 平成10年4月 | 郵政省（現総務省）より委託放送事業者としての認可取得（ 1 ） |
| 平成10年10月 | スカイパーフェクTV！757チャンネルにて「ビジネス・ブレイクスルー・チャンネル」24時間放送開始 |
| 平成11年9月 | 「南カリフォルニア大学 MBAコアカリキュラム」開講（ 2 ） |
| | 履修管理システム（Satellite Campus）を用いたサービス提供開始 |
| 平成13年5月 | 「ボンド大学 - BBT MBA（経営学修士）プログラム」開講 |
| | 総務省より新事業創出促進法に基づく、新事業分野開拓の実施に関する計画の認定を取得 |
| 平成13年7月 | 遠隔マネジメント教育事業を営む株式会社ディスタラーニングを事業統合を目的として株式交換により完全子会社化 |
| 平成13年10月 | 経営管理者育成プログラム「本質的問題発見コース」開講 |
| 平成14年4月 | 「大前経営塾～日本企業の経営戦略コース～」開講 |
| | 遠隔型学習環境統合システム（AirCampus）を用いたサービスを提供開始 |
| 平成14年8月 | マネジメント教育事業を営む株式会社ブレイクスルー及び遠隔教育コンテンツ制作を営む株式会社エルティーエンパワーの2社を事業統合を目的として合併 |
| | 株式会社大前・アンド・アソシエーツより事業統合を目的として「向研会」を業務移管 |
| 平成14年11月 | 経営管理者育成プログラム「本質的問題解決コース」開講 |
| 平成16年1月 | 経営管理者育成プログラム「役員研修コース」開講 |
| 平成16年4月 | 株式会社大前・アンド・アソシエーツより事業統合を目的として「大前研一通信」を業務移管 |
| 平成16年8月 | 講義映像をストリーミング形式で視聴して履修を進める学習プログラム「ブロードバンドラーニング」開講 |
| 平成17年3月 | 当社100%出資である株式会社ディスタラーニング（連結子会社）を解散 |
| 平成17年4月 | 株式会社立「ビジネス・ブレイクスルー大学院大学（以下BBT大学院）」開学 |
| 平成17年10月 | 経営管理者育成プログラム「問題解決実践スキルコース」開講 |
| 平成17年11月 | 経営管理者育成プログラム「病院経営を科学するコース」開講 |
| 平成17年12月 | 株式会社東京証券取引所マザーズ市場に上場 |
| 平成18年3月 | BBT大学院オープンカレッジ「株式・資産形成講座」開講 |
| 平成18年4月 | BBT大学院オープンカレッジ「Jack Welch Institute of Management」開講 |
| 平成18年9月 | BBT大学院オープンカレッジ「大前研一イノベーション講座」開講 |
| 平成20年3月 | BBT大学院オープンカレッジ「Practical English for Global Leaders」開講 |

（ 1 ）平成18年3月に総務省より電気通信役務利用放送事業者として移行登録を受けております。

（ 2 ）平成18年度にサービスを終了しております。

3【事業の内容】

当社は、主にインターネットや衛星放送を活用した遠隔型マネジメント教育事業を営んでおります。

当社の事業目的は、マネジメント教育事業を通じて、世界に通用する人材を育成することにあります。21世紀のデジタルネットワーク・ブロードバンド社会において、全世界の人々に対してマネジメントコンテンツと遠隔教育システムを利用したサービスを提供することにより、新しい遠隔双方向の教育を目指しております。

当社は、主に社会人を対象とし、ビジネスの基礎から専門分野別に分類された講座まで、約5,000時間のコンテンツを保有し、衛星放送、ブロードバンドなど多様な配信メディアを通してマネジメント教育プログラムの提供をしております。

(事業の内容)

当社の事業は、(1)「マネジメント教育サービス」及び(2)「経営コンテンツメディアサービス」により構成されております。

主要プログラム一覧

| 区分 | プログラム名称 | 提供先 | 標準受講期間 |
|---------------------|---|-------------------------|------------------------|
| (1) マネジメント教育サービス | 遠隔教育プログラム | | |
| | ・大前経営塾 | 個人・法人 | 12ヶ月 |
| | ・MBAプログラム | | |
| | - ボンド大学 - BBT MBAプログラム - ビジネス・ブレイクスルー大学院大学 - オープンカレッジ(公開講座) | 個人・法人 個人・法人 個人・法人 | 24ヶ月 24ヶ月 6～12ヶ月 |
| (1) マネジメント教育サービス | 集合教育プログラム | | |
| | ・向研会 | 法人 | 12ヶ月 |
| | ・企業研修 | 法人 | 1日～ |
| (1) マネジメント教育サービス | ・アタッカーズ・ビジネススクール | 個人・法人 | 3ヶ月 |
| | カスタマイズプログラム | 法人 | 1ヶ月～ |
| (2) 経営コンテンツメディアサービス | ・衛星レギュラー視聴 | 個人・法人 | 1ヶ月～ |
| | ・ラーニングマーケット | 個人・法人 | 1ヶ月～ |
| | ・大前研一通信 | 個人・法人 | 12ヶ月 |

(1) マネジメント教育サービス

マネジメント教育サービスは、遠隔教育プログラム、集合教育プログラム、カスタマイズプログラムより構成されております。

遠隔教育プログラム

遠隔教育プログラムの大部分は、保有コンテンツと遠隔教育システムをベースに商品化が行われており、次にあげる目的別のプログラムを提供しております。

・大前経営塾～日本企業の経営戦略コース～

経営者及び経営幹部を対象に、日本企業の最重要テーマについて、大前研一の講義や実際の経営者の話を収録したビデオとテキストを視聴し、インターネット上で議論するものです。大前研一のほか、他企業の経営幹部との議論を通じて、経営者としての見方・考え方を徹底的に鍛えあげることが主眼にしております。

・MBAプログラム

衛星放送とインターネットを用いた遠隔学習によって最短2年間でMBAを取得できるプログラムであります。

- ボンド大学 - BBT MBAプログラム

オーストラリアのボンド大学との提携により、欧米型のMBAプログラムを提供しております。講義の約50%は英語で行われ、卒業までに2回のオーストラリアにおけるワークショップを受講する必要があります。修了時にはボンド大学よりMBA（経営学修士）の学位が与えられます。

- ビジネス・ブレイクスルー大学院大学

当社は、平成16年6月に東京都千代田区より「キャリア教育推進特区」適用の認定を受けました。同区において株式会社による学校の設置が可能となったことから、当社は、文部科学省に対して「ビジネス・ブレイクスルー大学院大学（専門職大学院）」の設置認可の申請を行い、平成16年11月30日に文部科学大臣より認可を取得し、平成17年4月に開学しております。

本大学では、問題解決力養成に重きを置いたカリキュラムを提供しております。講義の大部分は日本語で行われ、修了時にはMBA（経営管理修士）の学位が与えられます。

- オープンカレッジ（公開講座）

ビジネス・ブレイクスルー大学院大学のオープンカレッジ（公開講座）の位置づけとなり、一般に広く公開された講座であります。オープンカレッジには、「問題解決力トレーニングプログラム」、「株式・資産形成講座」、「Jack Welch Institute of Management」、「大前研一イノベーション講座」、「Practical English for Global Leaders」が開講しております。

集合教育プログラム

当社は、遠隔教育を核としておりますが、顧客ニーズに応じて集合教育も提供しております。集合教育においては、法人を対象とした企業研修と個人を対象としたスクール形式の研修を行っております。法人を対象とした企業研修においては、遠隔教育と集合教育を組み合わせたブレンディング研修（1）も提供しております。また、集合教育の講義（企業研修を除く）は、撮影・編集することによりデジタル・コンテンツ化を行い、「遠隔教育プログラム」のコンテンツとしても利用しております。

・向研会

経営者を対象に、定例勉強会、各種セミナー、海外視察等を通じて、国内および海外の経済環境や経営課題の研究を行うプログラムであります。本プログラムは会員制となっており、東京、大阪、福岡の3地域で開催しております。

・企業研修

経営幹部及び経営幹部候補生を中心に、問題解決手法、経営課題の分析・解決策立案、ビジネスモデル分析・構築スキル等の自社課題の解決力を養成するためのプログラムであります。

・アタッカーズ・ビジネススクール

既存の考え方を変革し、意欲的に新しい第一歩を踏み出す社会人を対象に、起業戦略、ビジネス構想力、戦略シミュレーション、計数マネジメント等、新規ビジネスの構築に必要なエッセンスを効率的に養成するプログラムであります。

カスタマイズプログラム

本サービスは、法人向けに提供され、「遠隔教育プログラム」、「集合教育プログラム」、及び保有する約5,000時間のコンテンツを利用し、顧客の経営課題に合わせて最適なプログラムをカスタマイズして設計・提供しております。

(2) 経営コンテンツメディアサービス

当社は、経営コンテンツを複数の媒体（マルチメディア）で配信するサービスを行っております。最新のビジネス情報を効率的に吸収し、経営やビジネスに生かしていただくことを目的としております。自分で本質的問題を発見・解決し、また新しいものを構想しそれを事業として生み出していただけるように、経営やビジネスのヒントとなるコンテンツを配信し続けております。配信形態は、コンテンツをデジタル化することによってマルチメディアに対応可能となっております。現状では、衛星放送、ブロードバンド等にてサービスを提供しております。

・衛星レギュラー視聴

スカイパーフェクTV！757チャンネルにて当社の経営コンテンツを全て視聴できる会員制視聴サービスであります。最新コンテンツはもちろんのこと、約5,000時間のコンテンツの中から、目的に合わせて毎日24時間視聴することが可能です。

・ラーニングマーケット

学習ニーズの高いコースをブロードバンド環境にてストリーミング配信しております。

・大前研一通信

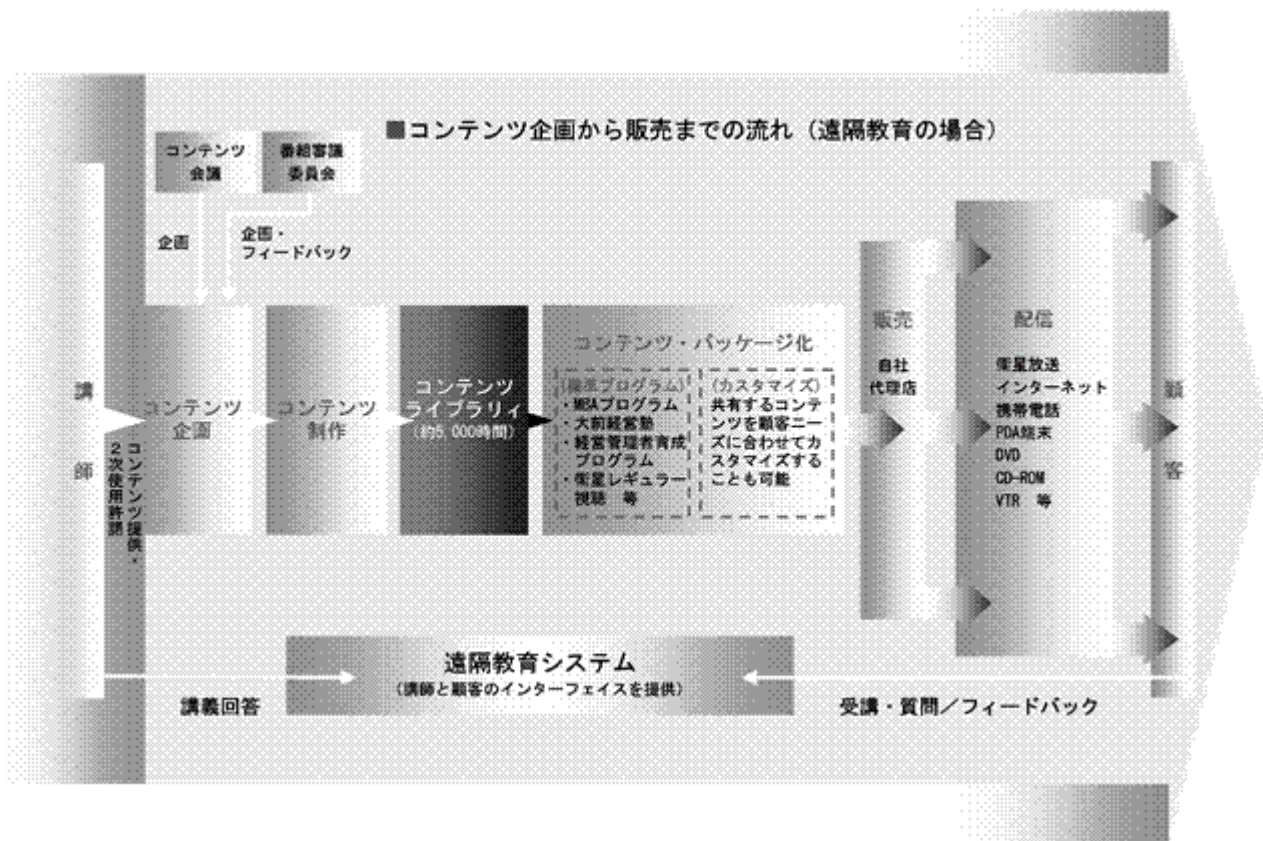
社会・ビジネスにおけるさまざまな問題に対して大前研一の発言や論文が掲載された月刊誌であります。

(事業の特徴)

当社は、コンテンツ制作から遠隔教育システムまでを、当社独自で企画・開発を行い、提供しております。

当社が提供する主要なサービスは、(事業の内容)に記載のとおりですが、保有コンテンツと遠隔教育システムをベースに設計されております。そのため、顧客のニーズに応じたプログラムのカスタマイズが少額の追加投資で対応可能となっており、遠隔教育システムを用いて多くの受講生にコンテンツの配信が可能なビジネスモデルとなっております(下記、「コンテンツ企画から販売の流れ(遠隔教育の場合)」参照)。

コンテンツ企画から販売までの流れ(遠隔教育の場合)



コンテンツ

ユーザーから支持されるコンテンツを継続的に創出するために、ビジネススクール教授、コンサルティングファーム代表などから構成されるコンテンツ会議にて企画・立案を行っており、自社のスタジオにおいて制作しております。コンテンツの内容は、最新の経営テーマから経営手法まで、大学教授、コンサルティングファーム代表、経営者、起業家等による講義を映像化したものであります。設立以来、約5,000時間のコンテンツを企画・制作・保有しております。

遠隔教育システム

インターネット上で受講生と講師による双方向のコミュニケーションを可能とする遠隔教育システムを自社開発しております。講義及び履修状況を管理する“Satellite Campus（履修管理システム）”（ 2 ）と遠隔による学習環境を統合した“AirCampus（遠隔型学習環境統合システム）”（ 3 ）を利用することにより、短期間で大量の人材を養成することが可能となっております。また、インターネット環境があればいつでもどこでも学習が可能のため、多忙な社会人でも学習の継続が可能となっております。

1 ブレンディング研修

通信教育やe-ラーニングなどの遠隔教育と、受講生を集め講師が直接講義等を行う集合教育を組み合わせることにより、効果的かつ効率的に人材育成を実施するプログラムであります。例えば、集合教育の前段階として、CD-ROM等を利用して各受講者の知識レベルを必要な到達レベルまで引き上げ標準化を図り、その上で集合教育を実施するなど、遠隔教育と集合教育を組み合わせることによって、より短時間の集合教育でも教育の効果を高めることを目的としております。

2 Satellite Campus（履修管理システム）

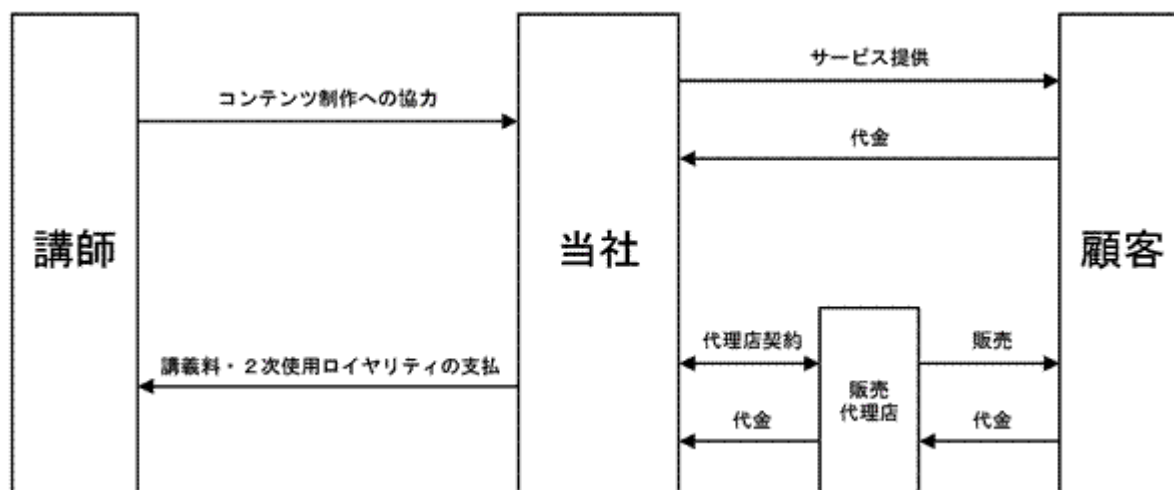
映像による講義とその講義を視聴したかどうかを認証する仕組み、及び、理解度を確認するテスト、修了レポートなどの提出、成績管理を含めた履修状況を管理する仕組みを組み合わせたシステムであります。本システムは、視聴覚認証システムのビジネスモデル特許を取得しております。

3 AirCampus（遠隔型学習環境統合システム）

大学等で授業を運営するため必要な機能をWEBベースにまとめた遠隔教育のための学習環境統合システムであります。クラス・ディスカッション機能、掲示板機能などがクライアントベースで実装され、前述のSatellite Campus機能も組み込んでおります。具体的には、遠隔で離れ離れの受講生に対してあたたかも一つのクラスルームのごとく、リアルタイムで議論を行う環境を提供するシステムであります。

事業の系統図は次のとおりであります。

[事業系統図]



4【関係会社の状況】

該当事項はありません。

5【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成22年3月31日現在

| 従業員数(人) | 平均年齢(才) | 平均勤続年数(年) | 平均年間給与(円) |
|---------|---------|-----------|-----------|
| 67(13) | 35.1 | 3.7 | 5,081,906 |

(注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(アルバイト、パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含みます。)は、()内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2 平均年間給与は、基準外賃金を含んでおります。なお、当社は年俸制を採用しており、賞与の制度を設けておりません。

(2) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当事業年度における世界経済は、世界的な景気後退局面から各国の景気刺激策の効果や中国を中心とする新興国経済は回復基調にあります。欧米の景気低迷の長期化懸念は払拭されず引き続き低い水準で推移いたしました。

わが国経済は、政府の経済対策効果等により一部で景気の底入れの兆しが見られるものの、企業収益の悪化や雇用・所得の悪化による個人消費の低迷が長期化するなど先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のなか、「世界に通用する人材を育成」すべく実践的なプログラムと遠隔教育システムの開発・充実に努めてまいりました。

当社は平成21年12月に文部科学省より「ビジネス・ブレイクスルー大学経営学部（以下、BBT大学）」設置が認可され、平成22年4月の開学に向けた認知度向上をはじめとした準備に取り組み、新規学生の募集を平成22年1月より開始いたしました。

各教育プログラムにつきましては、BBT大学オープンカレッジ講座等においてBBT大学開学にあわせた「BBT大学開学キャンペーン」を展開するとともに、当社教育プログラムの修了に応じて次回受講の際に価格特典が受けられる「BBTラーニングマイル制度」導入にともなうキャンペーンを実施し、修了・卒業生に継続学習を提案する新サービスを提供するなど普及促進の諸施策強化に努めました。

また、企業体質の強化を図るため前期から運營業務の効率化や全社的な経費低減など各種諸施策に継続して取り組む一方、BBT大学の開学にあわせPCによる受講だけでなく、iPod Touch/iPhone 端末向けの講義映像の視聴ならびに携帯電話端末において議論・質疑応答を行うサイバークラブルームを閲覧できるシステムの開発に積極的に投資し、受講生のライフスタイルにとらわれない講義受講を支援する環境の整備を推進いたしました。

以上の結果、当事業年度における売上高は1,926百万円（前期比3.3%減）、営業利益は225百万円（前期比30.7%増）、経常利益は279百万円（前期比31.4%増）、当期純利益は161百万円（前期比34.4%増）となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当事業年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前事業年度末に比べ178百万円（7.3%）増加し、当事業年度末には2,616百万円となりました。

(イ) 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、352百万円と前事業年度末に比べ238百万円（208.7%）の増加となりました。これは主に法人税等の支払額76百万円があったものの税引前当期純利益が279百万円であったこと、前受金の増加額108百万円があったことによるものです。

(ロ) 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、88百万円と前事業年度末に比べ2百万円（2.4%）の減少となりました。これは主に無形固定資産の取得による支出70百万円によるものです。

(ハ) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、133百万円と前事業年度末に比べ44百万円（50.6%）の減少となりました。これは主に自己株式の取得による支出84百万円及び配当金の支払い44百万円によるものであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

| | 平成18年3月期 | 平成19年3月期 | 平成20年3月期 | 平成21年3月期 | 平成22年3月期 |
|-----------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 自己資本比率(%) | 84.4 | 83.1 | 83.5 | 85.8 | 80.7 |
| 時価ベースの自己資本比率(%) | 578.64 | 253.3 | 90.2 | 59.5 | 85.8 |

各指標の算出は以下の算式を使用しております。

自己資本比率：自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

(注) 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しています。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績及び受注状況

当社は、遠隔型マネジメント教育を主たる事業としており、提供するサービスの性格上、生産及び受注という形態をとっていないため、記載しておりません。

(2) 販売実績

当事業年度の販売実績をサービスごとに示すと、次のとおりであります。

| 区分 | 当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 前年同期比 (%) |
|-----------------|--|--------------|
| マネジメント教育サービス | 1,633,400 | 5.1 |
| 経営コンテンツメディアサービス | 293,005 | 8.2 |
| 合計(千円) | 1,926,406 | 3.3 |

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 相手先別の販売実績が、総販売実績に対し10%以上のものではありません。

3 【対処すべき課題】

当社では、今後もさらに事業を拡大させ、新しい付加価値を創出していく上で、対処すべき課題として以下の項目に取り組んでまいります。

(1) 法人営業の強化

当社の収益拡大のためには、限られた経営資源を集中する必要があります。このため当社では、企業全体のマネジメント教育を「新人から社長まで」一括して引き受けられるよう大型提案に経営資源を集中する等、法人営業を強化していく方針であります。具体的には、顧客企業の人事教育制度そのものに当社が提供するマネジメント教育のプログラムが採用されるよう、各種各様のニーズに対して、コンテンツと遠隔教育システムのバリエーションの拡充と品質のさらなる向上・維持によって応え、当社の行う遠隔型マネジメント教育事業の普及を図り、収益拡大に努めてまいります。

(2) ビジネス・パートナーの開拓

当社の収益拡大のためには、販売体制の拡充が重要な課題であります。これまで当社は主に直販主体の販売体制を採っていましたが、今後は保有するコンテンツや遠隔教育システムを効率的に活用し収益に結びつけるために、ビジネス・パートナーの開拓に取り組み、販売体制、販売チャネルの拡充を図る必要があります。

(3) 遠隔教育システムの開発

当社が、今後遠隔型マネジメント教育事業を軸に業態拡大を目指すためには、遠隔教育システムとコンテンツの親和性が非常に重要なものとなります。今後は独自で設計開発してきた遠隔教育システムのプラットフォームである“Satellite Campus（履修管理システム）”、“AirCampus®（遠隔型学習環境統合システム）”を機能の強化及び学習支援の運用も含めより充実していく必要があります。

(4) 人材の確保と育成

当社の事業を拡大するには、優秀な人材の確保と育成が欠かせません。当社では、目的達成のために主体的かつ積極的に行動できる起業家的な人材の確保、当社の企業カルチャーと企業ミッションを共有化できる人材の育成が課題と考えております。

4【事業等のリスク】

以下において、当社の事業展開上のリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。また、必ずしも事業上のリスクに該当しない事項についても、投資家の投資判断上、重要であると考えられる事項については、投資家に対する情報開示の観点から積極的に開示しております。なお、当社は、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避、発生した場合の対応に努める方針です。

なお、以下の記載のうち将来に関する事項は、別段の記載のない限り、第12期有価証券報告書提出日現在において当社が判断したものであり、不確実性を内在しているため、実際の結果と異なる可能性があります。

(1) 事業環境について

インターネット普及について

当社は、インターネットを利用した遠隔教育事業を展開しており、インターネットへの常時高速接続環境が年々整備されてきていることは、当社の事業展開の追い風となっています。

これまでのところ、日本国内におけるインターネット利用人口は毎年増加しており平成21年末の日本国内の利用者数は前年比317万人増の9,408万人に達しております。また、世帯におけるブロードバンド（高速インターネット回線）利用率も平成21年末において76.8%まで高まりをみせております。（総務省「平成21年通信利用動向調査」）

しかしながら、インターネットの普及に伴う弊害の発生、利用に関する新たな規制の導入、その他予期せぬ要因によって、今後インターネット利用者の順調な増加が見られない場合には、当社の業績に影響を与える可能性があります。また、インターネットの普及が今後も進んだ場合であっても、当社が同様のペースで順調に成長しない可能性があります。

遠隔型マネジメント教育市場について

当社は、インターネットや衛星放送を活用した遠隔型マネジメント教育事業を営んでおりますが、遠隔教育市場はいまだ黎明期であり、今後市場は拡大するものと見込んでおります。

しかしながら、遠隔教育市場の順調な成長が見られない場合には、当社の業績に影響を与える可能性があります。

競合について

社会人を対象としたマネジメント教育に関しては、民間の研修会社、コンサルティングファーム、シンクタンク系企業に加え、独立行政法人化による大学の社会人教育への進出が急速に伸びてきており、今後競争が激しくなるものと認識しております。また、国内だけではなく国外からも競争相手が出現することにより、価格・サービス競争が激化することも予想されます。このため、当社のコンテンツ制作や遠隔システム等が競合企業と比べ優位性を維持できない場合や、価格・サービス競争に適切に対応できない場合には、当社の業績に影響を与える可能性があります。

法的規制について

電波法

当社が、衛星放送番組を委託放送事業者として提供するために、放送電波を地球局から放送衛星局のトランスポンダ（人工衛星に搭載された電波中継器）にアップリンク（地上の送信設備から通信衛星への送信）し、視聴者へダウンリンク（通信衛星から地上の受信設備への送信）する必要があります。地球局と放送衛星局との放送電波の無線伝送に関しては、電波法の定めがあります。電波法は、電波の公平且つ能率的な利用を確保することによって、公共の福祉を増進することを目的としております。当社は、同法に関わる業務をスカパーJ S A T株式会社に業務委託しております。

しかしながら、今後の法制度等の変更によっては、当社の事業展開に何らかの法的規制等を受け、当社の業績に影響を与える可能性があります。

キャリア教育推進特区と構造改革特別区域法

当社は、東京都千代田区が、構造改革特別区域法に基づいて平成15年10月24日に内閣総理大臣から認定を受けた構造改革特別区域計画「キャリア教育推進特区」を利用して、ビジネス・ブレイクスルー大学を設置し、当大学の経営を行っております。

このキャリア教育推進特区では、東京都千代田区が同区全域を範囲として、株式会社が大学や専門職大学院の設置主体となることを認め、従来の学校教育と実社会を結び付け、高い専門性を持った人材の輩出、地元企業との連携の充実、雇用や消費の拡大等、地域社会・経済の活性化を図ることを目的としており、学校設置会社による学校設置の特例措置が設けられております。

今後、これらの法制度の変更等が行われた場合には、当社の事業展開が、何らかの法的規制や制約等を新たに受ける可能性があり、その結果、当社の業績に影響を与える可能性があります。

大学設置基準について

当社は、学校教育法に定める大学として、大学設置基準に基づき文部科学省より大学の設置の認可を取得し、ビジネス・ブレイクスルー大学を経営しております。設置基準は、大学設置基準の他に、大学院設置基準、専門職大学院設置基準及び大学通信教育設置基準が定められております。各設置基準は、設置基準より低下した状態にならないようにすることはもとより、その水準の向上を図ることに努めることとされております。

今後、当社が何らかの理由により上記設置基準の水準を満たすことができなくなり大学の認可を取り消された場合、または、当該法制度等の変更によっては、当社の事業展開に何らかの法的規制等を受け、当社の業績に影響を与える可能性があります。

「教育訓練給付制度」の動向

当社のビジネス・ブレイクスルー大学大学院は、平成17年10月1日に雇用保険法第60条の2に規定する教育訓練給付金の教育訓練講座に指定され、同日以降の入学生は本制度の適用対象となっております。教育訓練給付金は、要件に該当する者が、厚生労働省令で定めるところにより、雇用の安定及び就職の促進を図るために必要な職業に関する教育訓練として厚生労働大臣が指定する教育訓練を受け、当該教育訓練を修了した場合において、支給要件期間が3年以上であるときに、支給するものであります。

当社に関連する雇用保険法の給付制度は、働く人の主体的な能力開発の取組みを支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とするものであり、今後の法制度等の変更によっては、当社の事業展開に何らかの法的規制等を受け、当社の業績に影響を与える可能性があります。

個人情報保護法

当社は、個人情報を含む多数の顧客情報を保有及び管理しております。当社はこれらの情報資産の適切な管理に最大限の注意を払っており、また、平成17年4月に完全施行された個人情報の保護に関する法律やこれに関連する総務省及び経済産業省制定のガイドラインの要求事項遵守に努めております。しかしながら、外部からの不正アクセス、システム運用における人的過失、従業員の故意等による顧客情報の漏洩、消失、改竄又は不正利用等が発生し、当社がそのような事態に適切に対応できず信用失墜又は損害賠償による損失が生じた場合には、当社の財政状態及び経営成績に重大な影響を与える可能性があります。

(2) 当社の事業について

技術、システム面のリスクについて

システム障害について

当社のサービス内容は、コンピューター及びインターネット技術に密接に関連しており、障害の兆候が見受けられる時や障害が発生した時には、自動的にポケットベル、携帯電話のメール等により当社の監視要員に通知する体制を整えております。しかしながら、当社のサービスは、通信事業者が運営する通信ネットワークに依存しており、電力供給不足、災害や事故等によって通信ネットワークやサーバーが利用できなくなった場合、コンピュータウイルスによる被害にあった場合、あるいは自社開発のサーバ・ソフトウェアに不具合が生じた場合等によって、当社のサービスの提供が不可能となる可能性があります。また、当社のサービスでは、衛星放送を利用した番組放映サービスがありますが、災害や事故等によって人工衛星の不具合が生じた場合、地球局から人工衛星に電波を伝送する施設に障害があった場合等によって番組放映サービスの提供が不可能となる可能性があります。このような事態が発生した場合には、ユーザー等から損害賠償の請求や当社の社会的信用を失う可能性等があり、当社の事業及び経営成績に重大な影響を与える可能性があります。

セキュリティについて

当社はハッカーやコンピュータウイルス等に備えるため、ネットワーク監視システム及びセキュリティシステムを構築しておりますが、外部からの不正な手段によるサーバー内の侵入などの犯罪や従業員の過誤等により顧客の個人情報等重要なデータが消去または不正に入手される可能性は否定できません。このような事態が発生した場合には損害賠償の請求を受ける可能性があります。また当社の社会的な信用を失うことになり、当社の事業及び経営成績に重大な影響を与える可能性があります。

技術の進展等について

当社のサービス内容は、コンピューター及びインターネット技術に密接に関連しております。当社では、適宜新しいシステム技術やセキュリティ関連技術等を取り入れながらシステムの構築、運営を行い、サービス水準を維持、向上させております。

しかしながら、これらコンピューター及びインターネットの分野での技術革新のスピードは著しいものがあり、当社の想定していない新しい技術の普及等により技術環境が急激に変化した場合、当社の技術等が対応できず、当社の事業展開に影響を与える可能性があります。また、変化に対応するための費用が生じ、当社の業績に影響を与える可能性があります。

知的財産権について

当社が各種サービスを展開するにあたっては、講師その他第三者に帰属する著作権等の知的財産権、肖像権等を侵害しないよう、楽曲・写真・映像等を利用する際には、事前に権利関係を調査するなど細心の注意を払っております。しかしながら、万が一、講師その他第三者の知的財産権、肖像権等を侵害した場合には、多額の損害賠償責任を負う可能性があります。

当社が各種サービスを展開するにあたっては、当社の持つ知的財産権等を侵害されないよう、映像コンテンツにはDRM（ ）を実装し、不正コピー等が行われないよう対策を講じており、また、各種オークションサイトに当社製品が展覧されていないか定期的に確認するなど、細心の注意を払っております。しかしながら、他者からの侵害を把握しきれない、もしくは適切な対応ができない場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

DRM (Digital Rights Management、デジタル著作権管理)

音声・映像ファイルにかけられる複製の制限技術や画像ファイルの電子透かし等のデジタルデータの著作権を保護する技術

講師の確保について

当社のコンテンツ制作にあたっては、最新の経済・経営の諸問題等をテーマとして取り上げると共に、適確な見識をもって講義を行うことができる講師が必要となります。現時点において当社では、これらの講師を確保し、継続してコンテンツを企画・制作して提供できているものと認識しております。

当社は、引続きこれらの講師の確保に努めていく方針であります。今後将来において、当社が求める適確な見識をもって講義を行うことができる講師を適切な契約条件によって確保できなくなった場合、当社のコンテンツ制作に重大な支障が生じ、当社の業績に影響を与える可能性があります。

ビジネス・ブレイクスルー大学について

当社は、東京都千代田区が構造改革特別区域法に基づき、キャリア教育推進特区として内閣総理大臣から認定を受け、同区において株式会社による大学・専門職大学院の設置が可能になったことから、文部科学省にビジネス・ブレイクスルー大学院大学（専門職大学院、現ビジネス・ブレイクスルー大学大学院）の設置申請を行い、平成16年11月30日に認可を取得し、平成17年4月1日に開学しております。また、平成22年4月1日には、ビジネス・ブレイクスルー大学経営学部を開学しております。

当社は、当大学設置にあたって千代田区のキャリア教育推進特区を利用していることから、在学生の修学を維持するため、優先的に経営資源を投入するなどの最大限の経営努力を行うこと、大学の経営に現に著しい支障が生じ、又は生ずる恐れがあると認められるときは、以降の在学を希望しない学生に対して、残余の期間分の授業料を返還すること、大学の経営が不安定となり、継続が危ぶまれるときに、受講生が他の大学で就学を保障する為、授業料等返還のため預金等の措置を講ずるべき義務があること等を定めた協定書を千代田区と締結しております。

この協定書を遵守するため当社では、当大学の経営のために優先的に経営資源を投入するなどの経営努力を行っていく方針であります。一方、当社はこの方針によって当社の営む他のサービスに悪影響を及ぼさないよう万全の留意を払い、経営努力を行っていく方針であります。しかしながら、これら当社の経営努力がうまくいかず、結果として当社の営む他のサービスに影響が及び、当社の業績に影響を与える可能性があります。また本協定書に違反したと判断された場合や、大学設置基準、大学院設置基準及び専門職大学院設置基準及び大学通信教育設置基準に規定される設置基準を満たさなくなった場合、協定書の更新を拒絶された場合は、キャリア教育推進特区における規制の特例措置を受けることができなくなり、文部科学省より本大学の設置許可を取り消される可能性や学校の閉鎖命令・勧告を受ける可能性があります。その結果、当社の業績に影響を与える可能性があります。

当大学では教授会を設置し、教育研究の計画、立案に関する事項、教育課程及び授業科目に関する事項等、当大学の教育研究に関することについては全て教授会で審議し決定することになっております。ただし、大学の校地、校舎及び設備等に関わる投資など当社の経営全般に関わる重要な事項については、当社の取締役会で意思決定することになっております。

(3) 組織体制について

代表取締役社長への依存及び当社の事業推進体制について

当社の代表取締役社長である大前研一は、当社の創業者であり、設立時より最高経営責任者であります。同氏は、企業経営に関する豊富な経験と知識を有しており、現在においても経営方針や事業戦略等の立案及び決定を始め、取引先やその他各分野に渡る人脈など、当社の事業推進の中心的役割を担っており、当社における同氏への依存度は高いものとなっております。

このため当社では、取締役会や経営会議等において、その他の役員及び幹部社員の情報共有や経営組織の強化を図り、同氏に過度に依存しない経営体制の整備を進めております。しかし、現時点においては、何らかの理由により同氏が当社の経営者として業務遂行が継続出来なくなった場合には、当社の業績及び今後の事業推進に重大な影響を与える可能性があります。

人材の確保と育成について

今後の業容の拡大及び業務内容の多様化に対応して、優秀な人材を適切な時期に確保する必要があります。しかしながら、人材の確保が思うように進まない場合や、社外流出等何らかの事由により既存の人材が業務に就くことが困難になった場合には、当社の事業活動に支障が生じ、業績に悪影響を与える可能性があります。

小規模組織における管理体制について

当社は、平成22年3月31日現在、取締役8名（内4名は非常勤）、監査役4名（内3名は非常勤）、従業員67名と小規模組織にて運営しておりますが、内部管理体制もこの規模に応じたものとなっております。当社では今後、業容の拡大に応じた組織整備や内部管理体制の拡充を図る予定です。しかしながら、業容の拡大に応じた組織整備や内部管理体制の拡充が順調に進まなかった場合には、当社の業務に支障が生じ、業績及び今後の事業展開に影響を受ける可能性があります。

(4) 関連当事者との取引について

当社は、コンテンツ制作やライブ放送のための防音設備を備えたスタジオ、集合研修用施設及び大学施設を含む本社を、当社代表取締役社長大前研一が代表取締役を兼務し、同氏の近親者が全額出資する株式会社横浜コンサルティンググループより賃借しております。

当社が営む遠隔型マネジメント教育事業におけるコンテンツは、大学教授、コンサルティングファーム代表、経営者、起業家等を講師として、その講義を映像化したものであり、その制作やライブ放送にあたっては防音設備を備えたスタジオが必要不可欠であり、また、法人を対象とした企業研修や個人を対象としたスクール形式の研修等の集合教育を行うにあたっては、相応の規模を有した集合研修用施設が必要不可欠であります。特にコンテンツ制作やライブ放送を行うに耐えるだけの防音設備を備えたスタジオは、例えば一般的な賃貸ビルの一室を改装して対応する等の方法では、実際の使用に耐えられないことから、その代替確保には大きな制約があるものと考えております。加えて、講師や受講者等の確保の観点から、一定の交通の利便性も確保することが必要となります。

ビジネス・ブレイクスルー大学は、学校教育法、大学設置基準、大学院設置基準及び専門職大学院設置基準等に基づき、大学設置の申請をし、文部科学省の認可を得ております。これら設置基準の中で日本の大学として備えるべき施設として、学長室、講義室、図書館などが定められております。これらの施設を安定的かつ継続的に維持・運営していくことが求められております。一方、大学の経営については、大学を安定的・継続的に経営する必要があることから、私立学校法において学校に必要な施設及び設備又はこれらに要する資金並びに経営に必要な財産を有しなければならない旨規定されております。更に、本大学は東京都千代田区の構造改革特別区域法（特区）を利用しており、特区の趣旨として、大学の経営は、公共的で、安定的・継続的な学校経営を担保することが前提となっております。このように、安定的・継続的な学校経営を原則とすることから、大学施設は物理的な場所も含め安定性・継続性を求められ、大学施設として学業・研究の充実のための施設拡充、利便性の向上といった移転すべき積極的な理由がない限り、大学認可時の主要施設を維持すべきものとなっております。

当社はその設立時から遠隔型マネジメント教育事業の立ち上げ期において、これらの諸条件を満たした設備等を当社自身で直接保有することは資金的・財政的に難しい状況にあったため、同社からこれらの設備等を賃借し、現在まで同取引を継続するに至っております。

同社との不動産賃借取引につきましては、現在、当社は業容が拡大する中で、本社機能である管理部門並びに営業部門の大部分は、第三者の賃貸ビルに入居しておりますが、集合研修用施設、防音設備を備えたスタジオやこれに付随するコンテンツ制作部門は、現状、近隣に適当な代替物件がないことも踏まえ、継続しております。今後は、当社の財政状態、経営成績及び不動産価格の動向を総合的に勘案した上で、当該賃借不動産の買取り、自社ビル購入等による集合研修用施設及びスタジオ確保といった方法等により、同取引を解消していく方針であります。

なお、同社との不動産賃借契約は2年毎の更新であり、契約価格の決定にあたっては、不動産鑑定士の意見を参考に、近隣の市場賃料水準を勘案して決定しております。しかしながら、同社が何らかの理由によって、契約更新に応じない場合には、当社の事業推進や事業継続に支障等が生じ、当社の業績に影響を与える可能性があります。

(5) その他

潜在株式について

当社は、取締役、監査役、使用人及び番組講師等の協力者に対して、新株予約権（以下「ストック・オプション」）を付与しており、平成22年3月末現在、ストック・オプションによる潜在株式数は6,720株であり、発行済株式数の10.6%に相当しております。これら潜在株式数の状況については、当社が営む遠隔型マネジメント教育事業を推進するにあたっては、当社役員及び従業員はもとより、社外の協力者から協力を得ることが必要不可欠であった結果であります。また、今後も継続的に新株予約権を発行、付与する可能性があります。

現在付与しているストック・オプション及び今後付与される新株予約権が行使された場合、1株当たりの株式価値が希薄する可能性があります。また、当社株式の株価の状況によっては、需給バランスの変動が発生し、当社株式の株価形成に影響を与える可能性があります。

為替変動について

当社のBOND-BBT MBAプログラムはオーストラリアのボンド大学と提携して行っております。受講生は授業料を豪ドル建てで支払うことになっております。従いまして、豪ドルに対して円が安くなると、受講生にとって円ベースでの授業料が高くなることになり、価格競争力が弱くなります。一方、MBAプログラムに対する当社の収入は、ボンド大学から現地通貨での授業料の一定の割合を円転して得ることになっておりますので、決済時期の為替相場によって、為替差益、為替差損が発生する可能性があります。

当社従業員の個人的活動について

当社代表取締役社長大前研一は、当社を設立する以前から執筆活動あるいは講演活動等を行っており、今後も当社の業務に支障が無い範囲で執筆活動あるいは講演活動等の個人的な活動を行う場合があります。また当社が社外から招聘した役員についても、同じように執筆活動あるいは講演活動等の個人的な活動を行う場合があります。同氏や当社が社外から招聘した役員の個人的活動によって得た収入は、各々の個人に帰属することになっております。これら同氏や当社が社外から招聘した役員の個人的な活動による評判やイメージが当社のブランドイメージや風評に影響する可能性があります。

代表取締役の役員兼任について

当社の代表取締役社長である大前研一は、当社の業務に支障が無い範囲で他の会社の非常勤取締役等を兼任しております。これまで同氏の他の会社の非常勤取締役等の兼任が、当社の業務において支障となったことはありませんが、今後、将来において当該他の会社で事故、事件、不祥事、経営の資産の状態等の著しい悪化等が発生した場合には、同氏の兼任する非常勤取締役等の責任の範囲に限り対応が必要となり、当社の事業、経営成績及び財政状態等に重大な影響を与える可能性があります。

コンテンツ出演者の不祥事・風評等のリスクについて

当社は、講師やキャスター等といった当社コンテンツの出演者が、事故、事件、不祥事等を起こした場合、または巻き込まれた場合、風説、風評及び報道等が為された場合等には、適切に対応することが必要となります。その結果、これまで蓄積してきたコンテンツにおいて、該当する出演者が出演するコンテンツは使用できなくなったり、今後、新たなコンテンツの制作に支障が生じたりした場合には、当社の業績等に影響を与える可能性があります。また、これらの発生事象に対し、当社が適切に対応できなかった場合、当社対応の如何に関わらず、当社にとって悪影響のある形で当該発生事象が投資家、マスコミ報道、インターネット、その他社会一般に広まった場合等には、当社のブランドイメージ等が損なわれ、当社の業績等に影響を与える可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

| 会社名 | 契約先 | 契約書名 | 契約内容 | 契約期間 |
|-----|-------------|--------------------|---|---|
| 当社 | スカパーJSAT(株) | デジタル衛星放送送信業務委託契約 | 当社の放送番組をJCSAT - 124衛星にアップリンクに関する業務委託 | 自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日 以後、1年間単位の自動更新 |
| 当社 | スカパーJSAT(株) | 送出代行業務委託契約書 | 当社の番組をテープ素材から放送運行スケジュールに基づき衛星に送出する業務 | 自 平成15年10月1日 至 平成16年9月30日 以後、1年間単位の自動更新 |
| 当社 | スカパーJSAT(株) | 有料放送運用業務委託契約 | スカパーチューナーのICカードの発行及び管理、ならびに視聴者の受信設備へのスクランブル施工、又は解除にかかわる業務 | 自 平成18年3月31日 至 平成19年3月31日 以後、1年間単位の自動更新 |
| 当社 | スカパーJSAT(株) | 衛星役務利用放送専用サービス契約約款 | 衛星からデジタル放送をスカイパーフェクTVの契約者の受信機に電波を送出する業務 | 自 平成10年10月1日 至 平成20年9月30日 以後、1年単位の自動更新 |
| 当社 | ポンド大学 | Service Agreement | ポンド大学とのMBAプログラムの提携に関する契約 | 自 平成13年4月1日 至 平成15年10月31日 以後、2年間単位の自動更新 |

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日（平成22年6月30日）現在において当社が判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。

この財務諸表の作成に関しては、決算日現在における財政状態並びに事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を与える見積り及び判断を行う必要があります。当社では、過去の実績や状況等を総合的に判断したうえで、合理的と考えられる見積り及び判断を行っておりますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

当社は、特に以下の会計方針が、当社の当事業年度の財務諸表の作成において使用される重要な見積りであるとともに、判断に大きな影響を及ぼすと考えております。

たな卸資産

たな卸資産の会計方針は、以下のとおりであります。

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

a 仕掛品 番組制作仕掛品・コンテンツ制作品・・・個別法

コンテンツの二次利用による制作品・・・先入先出法

b 貯蔵品 最終仕入原価法

なお、当社は、コンテンツを利用した事業活動を行っており、コンテンツ制作費については、原則として全額費用化することとしておりますが、一部のコンテンツについては資産計上を行っております。

貸倒引当金

当社は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については過年度実績率を基礎とした将来の貸倒予測率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。将来、顧客の財政状態が悪化し支払能力が低下した場合には、引当金の追加計上または貸倒損失が発生する可能性があります。

繰延税金資産

当社は、繰延税金資産について、将来の回収可能性を十分に検討し、回収可能な額を計上しておりますが、繰延税金資産の全部又は一部を将来実現できないと判断した場合には、当該判断を行った期間に繰延税金資産の調整額を費用として計上します。

(2) 財政状態に関する分析

(流動資産)

当事業年度末における流動資産は、前事業年度末に比べて208百万円（7.7%）増加し、2,937百万円となりました。これは主に現金及び預金が178百万円及び仕掛品が29百万円増加したことによるものです。

(固定資産)

当事業年度末における固定資産は、前事業年度末に比べて32百万円（7.6%）増加し、464百万円となりました。これは主に有形固定資産が12百万円減少したものの、無形固定資産が39百万円増加したことによるものであります。

(流動負債)

当事業年度末における流動負債は、前事業年度末に比べて217百万円（49.5%）増加し、657百万円となりました。これは主に前受金が108百万円、未払法人税等が43百万円及び未払費用が41百万円増加したことによるものです。

また、前事業年度末における固定負債が当事業年度においては流動負債に振り替わったことにより、当事業年度の負債合計は、前事業年度末に比べて209百万円（46.9%）増加し、657百万円となりました。

(純資産)

当事業年度末の純資産合計は、前事業年度末に比べて31百万円（1.2%）増加し、2,744百万円となりました。これは主に自己株式の取得83百万円及び配当金による利益剰余金の減少46百万円があったものの、当期純利益が161百万円であったことによるものです。

(3) 経営成績に関する分析

当事業年度における当社の取り組みは、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (1) 業績」に記載のとおりであります。この結果、当事業年度の業績は売上高1,926百万円（前期比3.3%減）、営業利益は225百万円（前期比30.7%増）、経常利益は279百万円（前期比31.4%増）、当期純利益は161百万円（前期比34.4%増）となりました。

（売上高）

売上高は、前事業年度に比べ65百万円（3.3%）減少し1,926百万円となりました。品目別においては、卒業生・修了生を対象とした会員サービスが、継続学習のニーズを取り込み順調に推移したこと、また、「BBT大学開学キャンペーン」の展開及び「BBTラーニングマイル制度」の導入に伴うキャンペーン実施により受講生数の増加要因となったものの、その他の個人受講比率の高い教育プログラムにおいて消費マインドの冷え込みが売上高に影響しました。

（売上原価、販売費及び一般管理費）

売上原価は、原価率の高いプログラムの減収により、前事業年度に比べ168百万円（21.8%）減少し604百万円となりました。

販売費及び一般管理費は、前事業年度に比べ50百万円（4.8%）増加し1,096百万円となりました。これは主に新規プログラム開設にかかる広告宣伝費及び、キャンペーンによる販売促進費の増加が主な要因です。

（営業利益）

営業利益は、上記の通り販売費及び一般管理費が増加したものの、売上原価の減少により前事業年度に比べ52百万円の増益（30.7%増）の225百万円となりました。

（経常利益）

経常利益は、営業利益が52百万円増益だったことに加え、為替差益等の営業外収益が増加となったため、前事業年度に比べ66百万円増益（31.4%増）の279百万円となりました。

（当期純利益）

当事業年度の当期純利益は前事業年度に比べ41百万円増益（34.4%増）の161百万円を計上いたしました。

(4) キャッシュ・フローの状況

「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フロー」に記載のとおりであります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当事業年度の設備投資の総額は99百万円であります。主な内容は、以下のとおりであります。

- ・遠隔教育システムの開発 32百万円
- ・社内業務システムの開発 29百万円

2【主要な設備の状況】

平成22年3月31日現在

| 事業所名(所在地) | 設備の内容 | 帳簿価額(千円) | | | | | 合計 | 従業員数(人) |
|----------------------|--------|----------|--------|-----------|-----------------|---------|---------|---------|
| | | 建物 | 機械及び装置 | 工具、器具及び備品 | 土地(面積㎡) | ソフトウェア | | |
| 本社 (東京都千代田区) | スタジオ設備 | 1,932 | 5,458 | 5,393 | - | - | 12,784 | 6(5) |
| 秋葉原オフィス (東京都千代田区) | 事務所設備 | 11,293 | - | 40,144 | - | 133,220 | 184,658 | 61(8) |
| 研修所 (長野県茅野市) | 建物 | 14,666 | - | - | - | - | 14,666 | - |
| 研修所 (山梨県南都留郡山中湖村) | 土地・建物 | 75,398 | - | - | 16,577 (694) | - | 91,976 | - |

(注) 1 上記事務所等においては、他の者から建物質借を受けております。

本社 平成22年3月期賃借料 16,642千円 面積 357.4㎡
 秋葉原オフィス 平成22年3月期賃借料 56,618千円 面積 779.87㎡

2 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(アルバイト、パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含みます。)は、()内に年間の平均人員を外数で記載しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設

平成22年3月31日現在

| 事業所名 | 所在地 | 事業の部門別の名称 | 設備の内容 | 投資予定金額 | | 資金調達方法 | 着手及び完了予定 | | 完成後の増加能力 |
|------|---------|-----------|-------------|--------|----------|--------|----------|--------|----------|
| | | | | 総額(千円) | 既支払額(千円) | | 着手 | 完了 | |
| 本社 | 東京都千代田区 | | 社内インフラ増強等 | 4,500 | - | 自己資金 | 平成22.4 | 平成23.3 | |
| 本社 | 東京都千代田区 | | 遠隔教育システム開発等 | 14,000 | - | 自己資金 | 平成22.4 | 平成23.3 | |
| 本社 | 東京都千代田区 | | 社内業務システム開発等 | 6,750 | - | 自己資金 | 平成22.4 | 平成23.3 | |

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 150,000 |
| 計 | 150,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 事業年度末現在発行数 (株) (平成22年3月31日) | 提出日現在発行数 (株) (平成22年6月30日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名 | 内容 |
|------|-----------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|----------------------|
| 普通株式 | 63,349 | 63,349 | 東京証券取引所 (マザーズ) | 単元株制度を採用しており ません。 |
| 計 | 63,349 | 63,349 | | |

(注) 1 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。

2 提出日現在の発行数には、平成22年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの旧商法第280条ノ20及び旧商法第280条ノ21の規定に基づく、新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

旧商法第280条ノ20及び旧商法第280条ノ21に基づき発行した新株予約権等は次のとおりであります。

旧商法第280条ノ20及び旧商法第280条ノ21の規定に基づき発行した新株予約権

平成16年6月28日定時株主総会及び平成16年6月28日取締役会決議

| 区分 | 事業年度末現在 (平成22年3月31日) | 提出日の前月末現在 (平成22年5月31日) |
|--|------------------------------|---------------------------|
| 新株予約権の数(個) | 362 | 362 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数 | - | - |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式 | 同左 |
| 新株予約権の目的となる株式の数(株) | 1,810 | 1,810 |
| 新株予約権の行使時の払込金額(円) | 50,000 | 同左 |
| 新株予約権の行使期間 | 自平成18年7月16日 至平成22年7月15日 | 同左 |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円) | 発行価格 50,000 資本組入額 25,000 | 同左 |
| 新株予約権の行使の条件 | (注) 1、2 | 同左 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | 譲渡、質入その他一切の処分 は認めないものとする。 | 同左 |
| 代用払込みに関する事項 | - | - |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 | - | - |

(注) 1 新株予約権発行後、株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株式の発行（新株予約権の行使により新株式を発行する場合を除く）を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当り払込金額}}{\text{新株式発行前の時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

2 新株予約権の行使条件

- (1) 新株予約権者は、以下の区分に従って、発行された新株予約権の一部又は全部を行使することが可能とする。なお、行使可能な新株予約権数が1個の新株予約権数の整数倍でない場合は、端数を四捨五入し、1個の新株予約権数の整数倍とする。

発行日から2年が経過した日から3年目までは、発行新株予約権数の5分の2について権利を行使することができる。

発行日から3年が経過した日から4年目までは、発行新株予約権数の5分の3に至るまで権利を行使することができる。

発行日から4年が経過した日から5年目までは、発行新株予約権数の5分の4に至るまで権利を行使することができる。

発行日から5年が経過した日から6年目までは、発行新株予約権数の総数について権利を行使することができる。

- (2) 新株予約権者が、当社の取締役、監査役又は使用人の地位に基づき新株予約権の割当を受けている場合、それら何れの地位も失った場合、その保有する新株予約権は即時失効する。但し、当社又は当社の子会社の取締役もしくは監査役を任期満了により退任した場合、又は定年退職その他正当な理由のある場合はこの限りでない。また、新株予約権者が当社に対する支援者としての地位（取締役会により支援の関係を認められたことによる地位）に基づき新株予約権の割当を受けている場合、権利行使時においても、当社に対する支援者の地位が継続していることを要す。新株予約権者は、当社に対する支援の関係が消滅したと当社が認めて対象者に通知をした場合、その者の権利は即時失効する。

- (3) 相続人による権利行使

取締役、監査役、使用人の場合

新株予約権者が死亡した場合において相続人が未行使の本新株予約権を承継し、行使することにつき当社の取締役会の承認を得た場合、新株予約権者の相続人は、本新株予約権の全部又は一部を行使することが出来る。但し、新株予約権者が、当社所定の書面により当社に対し相続人による権利行使を予め希望しない旨を届け出た場合は、この限りではない。

貢献者等、当社に対して支援の関係にある者の場合

支援者としての地位に基づき新株予約権を割り当てられた者につき、その者が死亡した場合には、その者の権利は即時失効するものとする。

- (4) この他の条件は、株主総会および新株予約権発行の取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。

- 3 平成17年10月14日開催の取締役会決議により、平成17年10月31日付で株式1株につき5株の株式分割を行っております。

平成17年6月28日定時株主総会及び平成17年6月28日取締役会決議

| 区分 | 事業年度末現在 (平成22年3月31日) | 提出日の前月末現在 (平成22年5月31日) |
|--|-----------------------------|---------------------------|
| 新株予約権の数(個) | 982 | 982 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数 | - | - |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式 | 同左 |
| 新株予約権の目的となる株式の数(株) | 4,910 | 4,910 |
| 新株予約権の行使時の払込金額(円) | 50,000 | 同左 |
| 新株予約権の行使期間 | 自平成19年7月15日 至平成27年7月14日 | 同左 |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円) | 発行価格 50,000 資本組入額 25,000 | 同左 |
| 新株予約権の行使の条件 | (注)1、2 | 同左 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | 譲渡、質入その他一切の処分は認めないものとする。 | 同左 |
| 代用払込みに関する事項 | - | - |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 | - | - |

(注)1 新株予約権発行後、株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株式の発行(新株予約権の行使により新株式を発行する場合を除く)を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当り払込金額}}{\text{新株式発行前の時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

2 新株予約権の行使条件

(1) 新株予約権者は、以下の区分に従って、発行された新株予約権の一部又は全部を行使することが可能とする。なお、行使可能な新株予約権数が1個の新株予約権数の整数倍でない場合は、端数を四捨五入し、1個の新株予約権数の整数倍とする。

発行日から2年が経過した日から3年目までは、発行新株予約権数の5分の2について権利を行使することができる。

発行日から3年が経過した日から4年目までは、発行新株予約権数の5分の3に至るまで権利を行使することができる。

発行日から4年が経過した日から5年目までは、発行新株予約権数の5分の4に至るまで権利を行使することができる。

発行日から5年が経過した日から10年目までは、発行新株予約権数の総数について権利を行使することができる。

(2) 新株予約権者が、当社の取締役、監査役又は使用人の地位に基づき新株予約権の割当を受けている場合、それら何れの地位も失った場合、その保有する新株予約権は即時失効する。但し、当社又は当社の子会社の取締役もしくは監査役を任期満了により退任した場合、又は定年退職その他正当な理由のある場合はこの限りでない。また、新株予約権者が当社に対する支援者としての地位(取締役会により支援の関係を認められたことによる地位)に基づき新株予約権の割当を受けている場合、権利行使時においても、当社に対する支援者の地位が継続していることを要す。新株予約権者は、当社に対する支援の関係が消滅したと当社が認めて対象者に通知をした場合、その者の権利は即時失効する。

(3) 相続人による権利行使

取締役、監査役、使用人の場合

新株予約権者が死亡した場合において相続人が未行使の本新株予約権を承継し、行使することにつき当社の取締役会の承認を得た場合、新株予約権者の相続人は、本新株予約権の全部又は一部を行使することが出来る。但し、新株予約権者が、当社所定の書面により当社に対し相続人による権利行使を予め希望しない旨を届け出た場合は、この限りではない。

貢献者等、当社に対して支援の関係にある者の場合

支援者としての地位に基づき新株予約権を割り当てられた者につき、その者が死亡した場合には、その者の権利は即時失効するものとする。

(4) この他の条件は、株主総会および新株予約権発行の取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で

締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。

- 3 平成17年10月14日開催の取締役会決議により、平成17年10月31日付で株式1株につき5株の株式分割を行っております。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

平成22年2月1日以後に開始する事業年度に係る有価証券報告書から適用されるため、記載事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式総数増減数 (株) | 発行済株式総数残高(株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金増減額(千円) | 資本準備金残高(千円) |
|------------------------------------|-------------------|--------------|----------------|---------------|--------------|-------------|
| 平成17年10月12日 (注)1 | 2,006 | 10,662.8 | 250,750 | 990,400 | 250,750 | 749,298 |
| 平成17年10月31日 (注)2 | 42,651.2 | 53,314 | - | 990,400 | - | 749,298 |
| 平成17年12月12日 (注)3 | 5,000 | 58,314 | 361,250 | 1,351,650 | 568,750 | 1,318,048 |
| 平成17年12月13日 ～平成18年3月31日 (注)1 | 1,100 | 59,414 | 27,500 | 1,379,150 | 27,500 | 1,345,548 |
| 平成18年4月1日 ～平成19年3月31日 (注)1 | 1,045 | 60,459 | 26,125 | 1,405,275 | 26,125 | 1,371,673 |
| 平成19年7月30日 (注)4 | | 61,349 | | 1,427,525 | 400,000 | 993,923 |
| 平成19年4月1日 ～平成20年3月31日 (注)1 | 2,190 | 62,649 | 54,750 | 1,460,025 | 54,750 | 1,026,423 |
| 平成20年4月1日 ～平成21年3月31日 (注)1 | 700 | 63,349 | 17,500 | 1,477,525 | 17,500 | 1,043,923 |

(注)1 旧商法第280条ノ19及び新事業創出促進法第11条の5の規定に基づく新株引受権並びに旧商法第280条ノ20及び旧商法第280条ノ21の規定に基づく新株予約権の行使による新株発行であります。

2 株式分割

株式1株を5株に分割しております。

3 有償一般募集(ブックビルディング方式)

発行価格 200,000円 引受価額 186,000円

発行価額 144,500円 資本組入額 72,250円

4 平成19年6月27日の定時株主総会における資本準備金減少決議に基づくその他資本剰余金への振替であります。

(6) 【所有者別状況】

平成22年3月31日現在

| 区分 | 株式の状況 | | | | | | | 計 | 単元未済株式の状況(株) |
|-------------|------------|------|----------|--------|-------|-------|--------|--------|--------------|
| | 政府及び地方公共団体 | 金融機関 | 金融商品取引業者 | その他の法人 | 外国法人等 | | 個人その他 | | |
| | | | | | 個人以外 | 個人 | | | |
| 株主数(人) | - | 1 | 13 | 29 | 10 | 6 | 2,238 | 2,297 | - |
| 所有株式数(株) | - | 156 | 465 | 1,854 | 2,627 | 1,506 | 56,741 | 63,349 | - |
| 所有株式数の割合(%) | - | 0.25 | 0.73 | 2.93 | 4.14 | 2.38 | 89.57 | 100.00 | - |

(注) 自己株式3,783株は、「個人その他」に含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成22年3月31日現在

| 氏名又は名称 | 住所 | 所有株式数(株) | 発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%) |
|---|----------------------------------|----------|------------------------|
| 大前 研一 | 東京都千代田区六番町 | 30,536 | 48.20 |
| 宮本 雅史 | 東京都目黒区青葉台 | 990 | 1.56 |
| MORGAN STANLEY & CO. INC (常任代理人 モルガン・スタンレー証券株式会社) | (東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー) | 980 | 1.55 |
| F.W. HUIBREGTSEN (常任代理人 当社) | (東京都千代田区六番町1-7) | 940 | 1.48 |
| 伊藤 泰史 | 東京都文京区本郷 | 825 | 1.30 |
| 村井 純 | 東京都世田谷区成城 | 805 | 1.27 |
| 黄 茂雄 | 東京都港区高輪 | 650 | 1.03 |
| BNP-PARIBAS SECURITIES SERVICES PARIS / JASDEC SPANISH RESIDENTS (常任代理人 香港上海銀行東京支店) | (東京都中央区日本橋3-11-1) | 600 | 0.95 |
| EUROCLEAR BANK S.A./N.V. (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行) | (東京都千代田区丸の内2-7-1 決済事業部) | 597 | 0.94 |
| 日森 潤 | 東京都港区港南 | 424 | 0.67 |
| 計 | | 37,347 | 58.95 |

(注) 上記の他、当社所有の自己株式3,783株(5.97%)があります。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成22年3月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|------------------------|----------|----|
| 無議決権株式 | - | - | - |
| 議決権制限株式(自己株式等) | - | - | - |
| 議決権制限株式(その他) | - | - | - |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 3,783 | - | - |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 59,566 | 59,566 | - |
| 単元未満株式 | - | - | - |
| 発行済株式総数 | 63,349 | - | - |
| 総株主の議決権 | - | 59,566 | - |

【自己株式等】

平成22年3月31日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義所有株式数(株) | 他人名義所有株式数(株) | 所有株式数の合計(株) | 発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%) |
|----------------------------|--------------------|--------------|--------------|-------------|------------------------|
| (自己保有株式) 株)ビジネス・ブレイクスルー | 東京都千代田区六番 町1番7号 | 3,783 | - | 3,783 | 5.97 |
| 計 | - | 3,783 | - | 3,783 | 5.97 |

(9) 【ストックオプション制度の内容】

当社はストックオプション制度を採用しております。

当該制度は、旧商法第280条ノ20及び旧商法第280条ノ21に基づき、新株予約権方式により当社取締役、当社使用人及び当社貢献者・支援者に対して付与することを、平成16年6月28日定時株主総会及び平成17年6月28日定時株主総会において決議されております。当該制度は次のとおりであります。

平成16年6月28日定時株主総会及び平成16年6月28日取締役会決議

| | |
|--------------------------|---|
| 決議年月日 | 平成16年6月28日 |
| 付与対象者の区分及び人数 | 取締役6名、監査役3名、使用人34名 貢献者・協力者48名、合計91名 |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式 |
| 株式の数(注)1 | 取締役に対し144株、監査役に対し15株、使用人に対し161株、貢献者・協力者に対し237株、合計557株 |
| 新株予約権の行使時の払込金額(円) | (2)新株予約権等の状況 に記載のとおりであります。 |
| 新株予約権の行使期間 | 同上 |
| 新株予約権の行使の条件 | 同上 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | 同上 |
| 代用払込みに関する事項 | - |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 | - |

平成17年6月28日定時株主総会及び平成17年6月28日取締役会決議

| | |
|--------------------------|---|
| 決議年月日 | 平成17年6月28日 |
| 付与対象者の区分及び人数 | 取締役10名、監査役3名、使用人32名 貢献者・協力者39名、合計84名 |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式 |
| 株式の数(注)1 | 取締役に対し635株、監査役に対し50株、使用人に対し134株、貢献者・協力者に対し398株、合計1,217株 |
| 新株予約権の行使時の払込金額(円) | (2)新株予約権等の状況に記載のとおりであります。 |
| 新株予約権の行使期間 | 同上 |
| 新株予約権の行使の条件 | 同上 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | 同上 |
| 代用払込みに関する事項 | - |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 | - |

(注)1 平成17年10月14日開催の取締役会決議により、平成17年10月31日付で株式1株につき5株の株式分割を行っております。これにより株式の数は2,785株、6,085株に調整されております。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号による普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

| 区分 | 株式数(株) | 価額の総額(千円) |
|--|--------|-----------|
| 取締役会(平成21年5月14日及び8月7日)での決議内容 (取得期間 平成21年5月15日~21年9月30日) | 1,500 | 100,000 |
| 当事業年度前における取得自己株式 | - | - |
| 当事業年度における取得自己株式 | 1,498 | 70,535 |
| 残存決議株式の総数及び価額の総額 | - | - |
| 当事業年度の末日現在の未行使割合(%) | - | - |
| 当期間における取得自己株式 | - | - |
| 提出日現在における未行使割合(%) | - | - |

| 区分 | 株式数(株) | 価額の総額(千円) |
|--|--------|-----------|
| 取締役会(平成21年11月6日)での決議内容 (取得期間 平成21年11月9日~22年3月31日) | 600 | 40,000 |
| 当事業年度前における取得自己株式 | - | - |
| 当事業年度における取得自己株式 | 324 | 13,154 |
| 残存決議株式の総数及び価額の総額 | 276 | 26,845 |
| 当事業年度の末日現在の未行使割合(%) | 46.0 | 67.1 |
| 当期間における取得自己株式 | - | - |
| 提出日現在における未行使割合(%) | - | - |

| 区分 | 株式数(株) | 価額の総額(千円) |
|--|--------|-----------|
| 取締役会(平成22年5月25日)での決議内容 (取得期間 平成22年5月26日~22年9月30日) | 1,000 | 50,000 |
| 当事業年度前における取得自己株式 | - | - |
| 当事業年度における取得自己株式 | - | - |
| 残存決議株式の総数及び価額の総額 | - | - |
| 当事業年度の末日現在の未行使割合(%) | - | - |
| 当期間における取得自己株式 | 166 | 8,126 |
| 提出日現在における未行使割合(%) | 83.4 | 83.7 |

(注) 当期間における取得自己株式数には、平成22年6月1日から有価証券報告書提出日までに取得した株式数は含めておりません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

| 区分 | 当事業年度 | | 当期間 | |
|-----------------------------|--------|------------|--------|------------|
| | 株式数(株) | 処分価額の総額(円) | 株式数(株) | 処分価額の総額(円) |
| 引き受ける者の募集を行った取得自己株式 | - | - | - | - |
| 消却の処分を行った取得自己株式 | - | - | - | - |
| 合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式 | - | - | - | - |
| その他 | - | - | - | - |
| 保有自己株式数 | 3,783 | - | 3,949 | - |

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成22年6月1日から有価証券報告書提出日までに取得した株式数は含めておりません。単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つと位置づけ、各期の経営成績、企業体質の強化と今後の事業展開に向けた内部留保の充実等を総合的に勘案しつつ、年間30%程度の配当性向を目標として、継続的な配当の実施に努めることを基本方針としております。

当事業年度は、株主の皆様の長期的な視点に配慮しつつ、上記の基本方針ならびに業績等を勘案し、1株当たり800円の普通配当を実施しております。また、本年4月には当社の運営するビジネス・ブレイクスルー大学経営学部が開学したことを記念するとともに、株主の皆様の日頃のご支援に感謝の意を表するため、1株当たり200円の記念配当を実施しております。これにより当事業年度の1株当たり年間配当金は、普通配当800円、記念配当200円の合計1,000円としております。

なお、当社は、取締役会の決議により中間配当をすることができる旨を定款で定めておりますが、期末配当の年1回を基本的な方針としております。当社の配当決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

(注) 基準日が当事業年度末に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

| 決議年月日 | 配当金の総額(百万円) | 1株当たり配当額(円) |
|------------------------|-------------|-------------|
| 平成22年6月29日 定時株主総会決議 | 59 | 1,000 |

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

| 回次 | 第8期 | 第9期 | 第10期 | 第11期 | 第12期 |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 決算年月 | 平成18年3月 | 平成19年3月 | 平成20年3月 | 平成21年3月 | 平成22年3月 |
| 最高(円) | 436,000 | 278,000 | 104,000 | 55,000 | 58,000 |
| 最低(円) | 203,000 | 96,100 | 45,150 | 28,000 | 29,500 |

(注) 株価は、東京証券取引所市場(マザーズ)におけるものであります。

当社株式は、平成17年12月13日から東京証券取引所市場(マザーズ)に上場されております。それ以前については、該当事項はありません。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

| 月別 | 平成21年10月 | 11月 | 12月 | 平成22年1月 | 2月 | 3月 |
|-------|----------|--------|--------|---------|--------|--------|
| 最高(円) | 48,000 | 46,100 | 58,000 | 53,800 | 49,200 | 55,500 |
| 最低(円) | 41,100 | 38,600 | 39,300 | 47,400 | 43,600 | 45,300 |

(注) 株価は、東京証券取引所市場(マザーズ)におけるものであります。

5【役員状況】

| 役名 | 職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 任期 | 所有株式数(株) |
|----------|------------------------------|-------|-------------|--|------|----------|
| 代表取締役社長 | ビジネス・ブレイクスルー大学学長 | 大前 研一 | 昭和18年2月21日生 | 昭和45年4月 ㈱日立製作所入社 昭和47年9月 マッキンゼー・アンド・カンパニー・インク入社 昭和54年7月 同社支社長に就任 昭和56年7月 同社ディレクターに就任 平成元年7月 同社アジア太平洋グループ会長に就任 平成4年11月 平成維新の会設立、代表に就任 平成8年10月 スタンフォード大学大学院ビジネススクール客員教授に就任 平成9年1月 カルフォルニア大学ロスアンゼルス校ビジネススクール客員教授に就任 平成9年4月 ㈱大前・アンド・アソシエーツ代表取締役に就任(現任) 平成10年4月 当社設立、代表取締役社長に就任(現任) 平成10年5月 ㈱エブリディ・ドット・コム設立、代表取締役社長に就任 平成14年6月 ㈱ジェネラル・サービシーズ設立、代表取締役社長に就任 平成16年9月 ㈱エブリディ・ドット・コム取締役会長に就任(現任) 平成17年4月 ビジネス・ブレイクスルー大学大学院学長 平成17年7月 ㈱ジェネラル・サービシーズ取締役会長に就任(現任) 平成22年4月 ビジネス・ブレイクスルー大学学長(現任) | (注)3 | 30,536 |
| 代表取締役副社長 | ビジネス・ブレイクスルー大学副学長 法人営業本部長 | 伊藤 泰史 | 昭和35年9月17日生 | 昭和61年4月 三菱電機㈱入社 平成10年4月 当社設立 平成10年12月 当社取締役に就任 平成13年2月 ㈱ディスタランニング代表取締役社長に就任 平成13年3月 ㈱ヴィーナスコンセプト代表取締役に就任 平成17年4月 ビジネス・ブレイクスルー大学大学院副学長 平成18年11月 当社代表取締役副社長に就任(現任) 平成22年4月 ビジネス・ブレイクスルー大学副学長(現任) | (注)3 | 825 |
| 取締役 | 編成制作局長 | 政元 竜彦 | 昭和42年3月28日生 | 平成2年4月 日商岩井㈱(現 双日㈱)入社 平成6年11月 NISSHO IWAI NEW ZEALAND LTD 出向 平成11年3月 当社入社 平成12年6月 当社取締役に就任(現任) | (注)3 | 240 |
| 取締役 | 総務経理統括リーダー | 徳永 裕司 | 昭和44年8月25日生 | 平成4年4月 五洋建設株式会社 入社 平成13年7月 当社入社 平成14年8月 当社執行役員に就任 平成17年6月 当社取締役に就任(現任) | (注)3 | 139 |
| 取締役 | | 石井 康雄 | 昭和9年1月6日生 | 昭和32年4月 日本電信電話公社(現 日本電信電話㈱)入社 昭和61年6月 同社取締役に就任 平成2年6月 同社常務取締役に就任 平成4年6月 エヌ・ティ・ティ・リース㈱代表取締役社長に就任 平成10年6月 同社取締役相談役に就任 平成10年9月 当社監査役に就任 平成12年6月 ニチエレ㈱代表取締役社長に就任 平成14年6月 同社常任顧問に就任 平成15年10月 ㈱ヘルシーネット(現ケンコーコム㈱)取締役に就任(現任) 平成17年4月 ビジネス・ブレイクスルー大学大学院経営学研究所教授(現任) 平成17年6月 当社取締役に就任(現任) | (注)3 | 97 |

| 役名 | 職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 任期 | 所有株式数(株) |
|-------------|----|-------|-------------|--|------|----------|
| 取締役 | | 鈴木 尚 | 昭和36年8月30日生 | 昭和61年9月 (株)スクウェア(現 (株)スクウェア・エニックス)設立、取締役に就任 平成3年10月 SQUARE SOFT, INC.取締役に就任 平成10年9月 当社取締役に就任(現任) 平成12年5月 (株)スクウェア代表取締役に就任 平成14年6月 同社取締役会長に就任 平成16年7月 (株)LDH代表取締役に就任 平成16年8月 (株)TASK代表取締役に就任(現任) 平成17年3月 楽天(株)取締役に就任 平成17年12月 (株)パワー・トゥ・ザ・ピープル(現 (株)PTP)取締役に就任 平成18年10月 (株)LDH相談役に就任(現任) 平成19年4月 (株)PTP取締役に就任(現任) 平成19年10月 楽天(株)CCMO 取締役常務執行役員に就任 平成20年3月 楽天エンタープライズ(株) 代表取締役に就任(現任) 平成20年7月 楽天(株) 取締役常務執行役員 コンテンツBU担当役員 パッケージエンタメBU担当役員(現任) 平成20年9月 (株)オウケイウェイブ 社外取締役に就任(現任) | (注)3 | 50 |
| 取締役 | | 渡邊 隆治 | 昭和12年3月1日生 | 昭和36年4月 東京芝浦電機(株)(現 (株)東芝)入社 昭和45年2月 赤井電機(株)入社 昭和58年12月 (株)ニフコ入社 平成8年6月 同社常務取締役に就任 平成8年9月 シモンズ(株)取締役に就任 平成10年9月 当社取締役に就任(現任) 平成13年6月 (株)ニフコ代表取締役に就任 平成15年3月 (株)ジャパントイズ取締役に就任 平成20年6月 (株)ニフコ特別顧問に就任 | (注)3 | 110 |
| 監査役 (常勤) | | 土肥 準三 | 昭和16年4月30日生 | 昭和44年4月 公認会計士三好敬一事務所 入所 昭和46年4月 昭和監査法人(現新日本監査法人) 入所 昭和48年3月 公認会計士登録 平成3年5月 太田昭和監査法人(現新日本監査法人) 代表社員 平成18年6月 新日本監査法人 代表社員退任 平成18年7月 土肥準三税務・会計事務所開設(現任) 平成19年6月 サンビアン(株) 監査役に就任(現任) 平成20年6月 当社監査役に就任(現任) 平成21年3月 ライオン(株) 社外監査役(補欠) | (注)4 | |

| 役名 | 職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 任期 | 所有株式数(株) |
|-----|----|-------|-------------|---|------|----------|
| 監査役 | | 志村 晶 | 昭和23年9月5日生 | 昭和46年7月 理学電機(株) (現 株)リガク)及び理学電機工業(株) 代表取締役社長に就任 昭和61年11月 株)リガク) 代表取締役社長に就任 平成12年3月 Osmic, Inc. 取締役会長兼最高経営責任者に就任 平成13年3月 Rigaku/MSC, Inc. 取締役会長兼最高経営責任者に就任 平成16年3月 Rigaku/MSC, Inc. 取締役会長に就任 平成16年4月 株)リガク) (合併により社名変更) 代表取締役社長に就任(現任) 平成17年6月 当社監査役に就任(現任) 平成18年3月 Rigaku Americas Corporation (Rigaku/MSC, Inc.より社名変更) 取締役会長に就任(現任) 平成21年1月 理学電企儀器(北京)有限公司設立 董事長に就任(現任) 平成22年3月 Rigaku Asia And Pacific Limited設立 取締役会会長に就任(現任) | (注)5 | 1 |
| 監査役 | | 村田 正樹 | 昭和32年6月9日生 | 昭和57年4月 野村證券(株) 入社 平成15年4月 野村信託銀行(株) 資金・為替部、資産金融部部長に就任 平成15年6月 森トラスト・アセットマネジメント(株)代表取締役社長に就任 平成15年6月 森トラスト総合リート投資法人 執行役員に就任 平成17年6月 当社監査役に就任(現任) 平成18年6月 MTラボ(株) 代表取締役社長に就任(現任) 平成21年2月 MTアドテック(株) 代表取締役社長に就任(現任) | (注)5 | |
| 監査役 | | 松本 洋 | 昭和26年6月28日生 | 昭和51年4月 日本鋼管(株) (現JFEスチール(株)) 入社 平成6年6月 米国ナショナルスチール取締役上席執行役員副社長兼プロコイル社代表取締役社長に就任 平成11年4月 KVHテレコム社代表取締役社長兼CEOに就任 平成12年11月 株)アルファパーチェス 代表取締役社長兼CEOに就任 平成16年6月 株)ソラン取締役に就任 平成16年6月 株)ベネッセコーポレーション 取締役に就任 平成18年3月 株)アルファパーチェス 取締役に就任(現任) 平成18年4月 株)アリックスパートナーズ・アジア・エルエルシー日本代表(マネージング・ディレクター)に就任 平成18年6月 当社監査役に就任(現任) 平成19年3月 アドベント・インターナショナル(株) 日本代表 兼 マネージングディレクターに就任 平成19年11月 アドベント・インターナショナル(株) 代表取締役に就任(現任) | (注)6 | |
| 計 | | | | | | 31,998 |

- (注) 1 取締役鈴木尚、渡邊隆治は、会社法第2条第15号に定める社外取締役にあります。
- 2 監査役土肥準三、志村晶、村田正樹、松本洋は、会社法第2条第16号に定める社外監査役にあります。
- 3 取締役の任期は、平成21年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成23年3月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
- 4 監査役任期は、平成20年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成24年3月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
- 5 監査役任期は、平成21年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成25年3月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
- 6 監査役任期は、平成22年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年3月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、企業価値の持続的な増大を図るには、コーポレート・ガバナンスが有効に機能することが不可欠であるとの認識のもと、ガバナンス体制の強化、充実に努めております。

まず、株主に対する説明責任を果たすべく、迅速かつ適切な情報開示の実施と経営の透明性の確保を重視しております。また、変化の速い経営環境に対応して、迅速な意思決定及び業務執行を可能とする経営体制を構築するとともに、経営の効率性を担保する経営監視体制の充実に努めてまいります。さらに、健全な倫理観に基づくコンプライアンスの体制を徹底し、株主、顧客をはじめとするステークホルダー（利害関係者）の信頼を得て、事業活動を展開していく方針であります。

今後も、会社の成長に応じて、コーポレート・ガバナンスの体制を随時見直し、企業価値の最大化を図ることを目標としてまいります。

企業統治の体制の概要

当社は、社外取締役、社外監査役による社外の視点を入れた監査・監督体制が経営監視機能として有効であると判断し、社外取締役2名を含む取締役7名で構成される取締役会と社外監査役4名で構成される監査役会による監査役設置会社制度を採用しております。

会社の機関の内容及び内部統制・リスク管理体制の整備の状況（平成22年6月30日現在）

取締役会

取締役会は7名の取締役により構成され、うち4名が常勤取締役、3名が非常勤取締役（うち2名が社外取締役）であります。毎月開催される定時取締役会に加え、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。取締役会では、経営会議での議論も踏まえて経営上の重要な意思決定を行うとともに、各取締役の業務執行の監督を行っております。

監査役会

監査役会は4名で構成され、全員が社外監査役であり、うち1名が常勤監査役であります。常勤監査役は経営会議に出席し、十分な情報に基づいて経営全般に関し幅広く検討を行っております。各監査役は、社外の独立した立場から経営に対する適正な監視を行っております。

また、監査計画に基づく監査の実施状況や各監査役からの経営情報を共有化するなど、監査役間のコミュニケーションの向上により監査の充実に努めております。

経営会議

当社では、原則として月1回、常勤取締役、各部署の責任者及び常勤監査役が出席する経営会議を開催しております。経営会議は、事業計画及び業績についての検討及び重要な業務に関する意思決定を行っております。各部門の業務の執行状況が報告され、情報を共有しつつ、十分な議論を行っております。

監査法人等

当社は、必要に応じて顧問弁護士や会計監査人から意見を聞くなど協力体制を構築し、内部監査の実施や社内規定をはじめ、「コンプライアンスマニュアル」などの内規を整備するなど、リスク管理を徹底し、当社の役員や社員へ法令遵守の重要性を啓蒙することによりコンプライアンスの向上に努めております。

ⅴ 会社情報管理体制

当社では、「内部情報管理規程」を策定し、同規程に基づいた内部情報の把握・管理を行っております。重要情報が発生した場合、当該事実を認識した部門から速やかに総務部に情報が集約され、全社の情報開示責任である総務部担当役員への報告・事実確認手続きを行っております。また、各部門のリーダーは、各部門における情報管理責任者として、全社の情報管理責任者と連携して内部情報の管理・徹底を行うとともに、従業員に対して内部情報の重要性の認識・浸透を図っております。

内部監査及び監査役監査

内部監査は、每期監査計画を作成し、その監査計画に従って、業務監査を実施しております。内部監査の結果については、監査実施後、速やかに社長へ報告しております。

監査役は、監査役会が定めた当期の監査方針、監査計画などに従い、定期的に監査を実施し、その他取締役会及び経営会議への出席や、取締役からその職務の執行状況について聴取するなど取締役の職務執行を監査しております。また、会計監査人の独立性を監視し、会計監査人からの監査計画の説明及び監査結果の報告などにより、会計監査人との連携をはかっております。

なお、常勤監査役土肥準三氏は、公認会計士の資格を有しております。

社外取締役及び社外監査役と提出会社との関係

当社の社外取締役は2名、社外監査役は4名であります。当社と当社の社外取締役及び社外監査役との間には、

一部当社株式の所有（5「役員状況」に記載）を除き、人的関係、資本的关系、その他重要な取引関係はありません。

当社は、取締役会の経営監視及び経営陣の職務執行に対する監査機能の透明性及び独立性を確保するため、役員規程において社外取締役及び社外監査役の要件を定めております。また、当社は、同規程において社外取締役の員数は取締役会の構成員のうち少なくとも1名以上とし、社外監査役の員数は、監査役会の構成員のうち過半数以上とする旨を定めており、現在これを充足しております。

なお、社外取締役及び社外監査役が出席する取締役会及び監査役会には、内部監査部門及び内部統制部門が適宜出席できることとしており、かつ必要に応じミーティングを実施するなど連携を図っております。

会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、井上雅彦、長島拓也の2名であり、有限責任監査法人トーマツに所属しております。当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士2名、その他4名であり、いずれも有限責任監査法人トーマツに所属しております。

当社の会計監査業務を執行した公認会計士の氏名は以下のとおりです。

業務を執行した公認会計士の氏名

指定有限責任社員業務執行社員 公認会計士 井上 雅彦

指定有限責任社員業務執行社員 公認会計士 長島 拓也

監査業務にかかわる補助者の構成は次のとおりであります。

公認会計士 2名、その他 4名、合計 6名

（注）継続監査年数は、全員7年以内であるため、記載を省略しております。

役員報酬の内容

役員ごとの報酬等の総額等

| 役員区分 | 報酬等の総額 | 報酬等の種類別の総額 | 対象となる 役員の員数 |
|---------------|--------|------------|----------------|
| | | 基本報酬 | |
| 取締役（社外取締役を除く） | 86百万円 | 86百万円 | 6名 |
| 監査役（社外監査役を除く） | - | - | - |
| 社外役員 | 6百万円 | 6百万円 | 6名 |

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

報酬等に関しましては、毎年の業績や会社に対する業績面、コンテンツ制作面、運営管理面に関する貢献度、他社報酬等平均額等を勘案し、取締役会において評価・決定しております。

取締役会にて決議できる株主総会決議事項

自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、中間配当をすることができる旨を定款で定めております。

取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨を定款で定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及びその選任決議は累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を目的として、会社法第309条第2項に定める決議は、定款に別段の定めがある場合を除き、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2をもって行う旨を定款で定めております。

株式の保有状況

投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

9銘柄 12,100千円

(注)1 当該保有株式は、当社の教育プログラムで学んだ成果を活かしてニュービジネスにチャレンジする起業家に対し、事業創出のための後押しを目的として出資する、スタートアップ起業家支援プロジェクト「背中をポンと押すファンド(略称:SPOF)」(平成20年6月より実施)を通じて出資し株式を保有しております。

(注)2 保有目的が純投資目的である投資株式は保有しておりません。

(2)【監査報酬の内容等】**【監査公認会計士等に対する報酬の内容】**

| 前事業年度 | | 当事業年度 | |
|-----------------------|----------------------|-----------------------|----------------------|
| 監査証明業務に基づく報酬 (百万円) | 非監査業務に基づく報酬 (百万円) | 監査証明業務に基づく報酬 (百万円) | 非監査業務に基づく報酬 (百万円) |
| 17 | 0 | 16 | 6 |

【その他重要な報酬の内容】

(前事業年度)

該当事項はありません。

(当事業年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前事業年度)

監査公認会計士に対して「財務報告に係る内部統制に関する指導・助言業務」についての対価を支払っております。

(当事業年度)

監査公認会計士に対して「財務デューデリジェンス業務」についての対価を支払っております。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日数等を勘案したうえで決定しております。

第5【経理の状況】

1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前事業年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前事業年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）の財務諸表については、監査法人トーマツにより監査を受け、当事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の財務諸表については、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

なお、監査法人トーマツは、監査法人の種類の変更により、平成21年7月1日をもって有限責任監査法人トーマツとなっております。

3 連結財務諸表について

当社には子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

4 財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (平成21年3月31日) | 当事業年度 (平成22年3月31日) |
|---------------|-----------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 2,438,208 | 2,616,817 |
| 売掛金 | 181,948 | 187,925 |
| 仕掛品 | 37,687 | 67,498 |
| 貯蔵品 | 3,666 | 647 |
| 前払費用 | 63,009 | 57,034 |
| 繰延税金資産 | 4,446 | 8,940 |
| その他 | 1,528 | 837 |
| 貸倒引当金 | 1,513 | 1,904 |
| 流動資産合計 | 2,728,982 | 2,937,796 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物 | 128,782 | 128,782 |
| 減価償却累計額 | 19,503 | 25,491 |
| 建物(純額) | 109,278 | 103,291 |
| 構築物 | 1,085 | 1,085 |
| 減価償却累計額 | 559 | 634 |
| 構築物(純額) | 525 | 450 |
| 機械及び装置 | 71,286 | 71,048 |
| 減価償却累計額 | 64,504 | 65,590 |
| 機械及び装置(純額) | 6,782 | 5,458 |
| 車両運搬具 | 4,844 | 4,844 |
| 減価償却累計額 | 1,159 | 2,334 |
| 車両運搬具(純額) | 3,685 | 2,509 |
| 工具、器具及び備品 | 177,532 | 191,758 |
| 減価償却累計額 | 128,201 | 146,220 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 49,330 | 45,538 |
| 土地 | 16,577 | 16,577 |
| 有形固定資産合計 | 186,179 | 173,826 |
| 無形固定資産 | | |
| 借地権 | 84,671 | 84,671 |
| 商標権 | 4,085 | 4,057 |
| 特許権 | 1,377 | 1,203 |
| ソフトウェア | 114,528 | 133,220 |
| 電話加入権 | 1,335 | 1,335 |
| ソフトウェア仮勘定 | 3,864 | 24,921 |
| 無形固定資産合計 | 209,862 | 249,409 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 4,000 | 12,100 |
| 差入保証金 | 28,269 | 28,269 |
| 繰延税金資産 | 3,059 | 610 |
| その他 | 53 | 53 |
| 投資その他の資産合計 | 35,382 | 41,033 |
| 固定資産合計 | 431,424 | 464,268 |
| 資産合計 | 3,160,407 | 3,402,064 |

| | 前事業年度 (平成21年3月31日) | 当事業年度 (平成22年3月31日) |
|-------------|-----------------------|-----------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 4,822 | 4,376 |
| 未払金 | 2,534 | 20,790 |
| 未払費用 | 86,104 | 127,971 |
| 未払法人税等 | 35,466 | 79,421 |
| 未払消費税等 | 3,798 | 5,373 |
| 未払配当金 | 2,343 | 3,700 |
| 前受金 | 297,687 | 406,021 |
| 預り金 | 6,612 | 5,783 |
| 奨学還付引当金 | - | 3,300 |
| その他 | 411 | 529 |
| 流動負債合計 | 439,781 | 657,268 |
| 固定負債 | | |
| 奨学還付引当金 | 7,517 | - |
| 固定負債合計 | 7,517 | - |
| 負債合計 | 447,298 | 657,268 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,477,525 | 1,477,525 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | 1,043,923 | 1,043,923 |
| その他資本剰余金 | 81,122 | 81,122 |
| 資本剰余金合計 | 1,125,045 | 1,125,045 |
| 利益剰余金 | | |
| その他利益剰余金 | | |
| 繰越利益剰余金 | 210,431 | 325,808 |
| 利益剰余金合計 | 210,431 | 325,808 |
| 自己株式 | 99,893 | 183,582 |
| 株主資本合計 | 2,713,109 | 2,744,796 |
| 純資産合計 | 2,713,109 | 2,744,796 |
| 負債純資産合計 | 3,160,407 | 3,402,064 |

【損益計算書】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日) |
|--------------|---|---|
| 売上高 | 1,992,043 | 1,926,406 |
| 売上原価 | 772,888 | 604,163 |
| 売上総利益 | 1,219,154 | 1,322,243 |
| 販売費及び一般管理費 | | |
| 広告宣伝費 | 100,677 | 162,105 |
| 販売促進費 | 15,763 | 41,808 |
| 役員報酬 | 126,081 | 92,232 |
| 給料及び手当 | 330,773 | 341,924 |
| 法定福利費 | 36,786 | 39,987 |
| 地代家賃 | 71,090 | 71,090 |
| 業務委託費 | 108,672 | 72,044 |
| 支払手数料 | 60,953 | 87,450 |
| 減価償却費 | 38,071 | 39,428 |
| 貸倒損失 | - | 162 |
| 貸倒引当金繰入額 | - | 391 |
| その他 | 157,749 | 148,084 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 1,046,620 | 1,096,710 |
| 営業利益 | 172,534 | 225,532 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 13,252 | 7,618 |
| 有価証券利息 | 1,493 | - |
| 為替差益 | 26,748 | 50,871 |
| その他 | 1,827 | 543 |
| 営業外収益合計 | 43,321 | 59,033 |
| 営業外費用 | | |
| 投資有価証券評価損 | 1,500 | - |
| 株式交付費 | 559 | - |
| 固定資産除却損 | 1 928 | 1 92 |
| 支払手数料 | 367 | 2 5,158 |
| 営業外費用合計 | 3,355 | 5,251 |
| 経常利益 | 212,499 | 279,314 |
| 税引前当期純利益 | 212,499 | 279,314 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 91,233 | 119,941 |
| 法人税等調整額 | 1,186 | 2,044 |
| 法人税等合計 | 92,419 | 117,896 |
| 当期純利益 | 120,080 | 161,418 |

【売上原価明細書】

| 区分 | 注記 番号 | 前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日) | | 当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日) | |
|-----------|----------|--------------------------------------|------------|--------------------------------------|------------|
| | | 金額(千円) | 構成比 (%) | 金額(千円) | 構成比 (%) |
| 材料費 | 1 | 40,365 | 5.3 | 36,664 | 5.8 |
| 労務費 | | 93,767 | 12.3 | 74,665 | 11.8 |
| 経費 | | 626,887 | 82.4 | 522,667 | 82.4 |
| 当期総製造費用 | | 761,020 | 100.0 | 633,996 | 100.0 |
| 期首仕掛品たな卸高 | 2 | 49,563 | | 37,687 | |
| 合計 | | 810,584 | | 671,684 | |
| 期末仕掛品たな卸高 | | 37,687 | | 67,498 | |
| 他勘定振替高 | | 7 | | 23 | |
| 売上原価 | | 772,888 | | 604,163 | |

(原価計算の方法)

前事業年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

当社の原価計算は、個別原価計算による実際原価計算であります。

当事業年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

同上

(注) 1 主な内訳は次のとおりであります。

(単位：千円)

| 項目 | 第11期 | 第12期 |
|------------|---------|---------|
| 映像放出料 | 106,759 | 92,636 |
| 業務委託費 | 250,768 | 165,915 |
| 二次利用ロイヤリティ | 58,800 | 52,347 |

2 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

(単位：千円)

| 項目 | 第11期 | 第12期 |
|-------|------|------|
| 販売促進費 | 7 | 23 |
| 合計 | 7 | 23 |

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日) |
|-----------------|---|---|
| 株主資本 | | |
| 資本金 | | |
| 前期末残高 | 1,460,025 | 1,477,525 |
| 当期変動額 | | |
| 新株の発行（新株予約権の行使） | 17,500 | - |
| 当期変動額合計 | 17,500 | - |
| 当期末残高 | 1,477,525 | 1,477,525 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | | |
| 前期末残高 | 1,026,423 | 1,043,923 |
| 当期変動額 | | |
| 新株の発行（新株予約権の行使） | 17,500 | - |
| 当期変動額合計 | 17,500 | - |
| 当期末残高 | 1,043,923 | 1,043,923 |
| その他資本剰余金 | | |
| 前期末残高 | 81,122 | 81,122 |
| 当期変動額 | | |
| 当期変動額合計 | - | - |
| 当期末残高 | 81,122 | 81,122 |
| 資本剰余金合計 | | |
| 前期末残高 | 1,107,545 | 1,125,045 |
| 当期変動額 | | |
| 新株の発行（新株予約権の行使） | 17,500 | - |
| 当期変動額合計 | 17,500 | - |
| 当期末残高 | 1,125,045 | 1,125,045 |
| 利益剰余金 | | |
| その他利益剰余金 | | |
| 繰越利益剰余金 | | |
| 前期末残高 | 152,392 | 210,431 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | 62,042 | 46,041 |
| 当期純利益 | 120,080 | 161,418 |
| 当期変動額合計 | 58,038 | 115,377 |
| 当期末残高 | 210,431 | 325,808 |
| 利益剰余金合計 | | |
| 前期末残高 | 152,392 | 210,431 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | 62,042 | 46,041 |
| 当期純利益 | 120,080 | 161,418 |
| 当期変動額合計 | 58,038 | 115,377 |

| | 前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日) |
|-----------------|---|---|
| 当期末残高 | 210,431 | 325,808 |
| 自己株式 | | |
| 前期末残高 | 36,855 | 99,893 |
| 当期変動額 | | |
| 自己株式の取得 | 63,037 | 83,689 |
| 当期変動額合計 | 63,037 | 83,689 |
| 当期末残高 | 99,893 | 183,582 |
| 株主資本合計 | | |
| 前期末残高 | 2,683,108 | 2,713,109 |
| 当期変動額 | | |
| 新株の発行（新株予約権の行使） | 35,000 | - |
| 剰余金の配当 | 62,042 | 46,041 |
| 当期純利益 | 120,080 | 161,418 |
| 自己株式の取得 | 63,037 | 83,689 |
| 当期変動額合計 | 30,000 | 31,687 |
| 当期末残高 | 2,713,109 | 2,744,796 |
| 純資産合計 | | |
| 前期末残高 | 2,683,108 | 2,713,109 |
| 当期変動額 | | |
| 新株の発行（新株予約権の行使） | 35,000 | - |
| 剰余金の配当 | 62,042 | 46,041 |
| 当期純利益 | 120,080 | 161,418 |
| 自己株式の取得 | 63,037 | 83,689 |
| 当期変動額合計 | 30,000 | 31,687 |
| 当期末残高 | 2,713,109 | 2,744,796 |

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日) |
|-------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税引前当期純利益 | 212,499 | 279,314 |
| 減価償却費 | 67,975 | 71,767 |
| 貸倒引当金の増減額 (は減少) | 706 | 391 |
| 受取利息 | 14,745 | 7,618 |
| 投資有価証券評価損益 (は益) | 1,500 | - |
| 固定資産除却損 | 928 | 92 |
| 売上債権の増減額 (は増加) | 78,239 | 5,977 |
| たな卸資産の増減額 (は増加) | 10,739 | 26,791 |
| 仕入債務の増減額 (は減少) | 2,621 | 445 |
| 未払費用の増減額 (は減少) | 27,806 | 41,866 |
| 前受金の増減額 (は減少) | 2,161 | 108,333 |
| 未払消費税等の増減額 (は減少) | 8,648 | 1,575 |
| その他 | 79,279 | 41,243 |
| 小計 | 245,479 | 421,265 |
| 利息の受取額 | 14,309 | 7,860 |
| 法人税等の支払額 | 145,574 | 76,542 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 114,214 | 352,583 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | 18,145 | 9,909 |
| 無形固定資産の取得による支出 | 64,640 | 70,571 |
| 投資有価証券の取得による支出 | 5,500 | 8,100 |
| その他 | 1,815 | - |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 86,471 | 88,581 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 新株予約権の行使による株式の発行による収入 | 35,000 | - |
| 自己株式の取得による支出 | 63,405 | 84,119 |
| 配当金の支払額 | 59,699 | 44,683 |
| 株式の発行による支出 | 559 | - |
| その他 | - | 4,728 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 88,663 | 133,531 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 28,872 | 48,139 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (は減少) | 32,048 | 178,609 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 2,470,256 | 2,438,208 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 2,438,208 ₁ | 2,616,817 ₁ |

【重要な会計方針】

| 項目 | 前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日) | 当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日) |
|--------------------|--|---|
| 1 有価証券の評価基準及び評価方法 | (1) その他有価証券 時価のないもの 移動平均法による原価法 | (1) その他有価証券 同左 |
| 2 たな卸資産の評価基準及び評価方法 | 通常の販売目的で保有するたな卸資産 評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。 (1) 仕掛品 番組制作仕掛品・コンテンツ制作品 ...個別法 コンテンツの二次利用による制作品 ...先入先出法 (2) 貯蔵品 最終仕入原価法 (会計方針の変更) 当事業年度から平成18年7月5日公布の「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準委員会 企業会計基準第9号)を適用しております。 これに伴う、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益への影響は軽微であります。 | 通常の販売目的で保有するたな卸資産 評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。 (1) 仕掛品 同左 (2) 貯蔵品 同左 |
| 3 固定資産の減価償却の方法 | (1) 有形固定資産 定率法によっております。 但し、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法によっております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 3年~38年 機械及び装置 4年~6年 工具器具備品 4年~20年 (2) 無形固定資産 定額法によっております。 なお、自社利用ソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づいております。 | (1) 有形固定資産 同左 (2) 無形固定資産 同左 |
| 4 繰延資産の処理方法 | 株式交付費 支出時に全額費用として処理してあります。 | |

| 項目 | 前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日) | 当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日) |
|---------------------------|--|--|
| 5 引当金の計上基準 | <p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒損失の発生に備えるため、一般債権については過去の貸倒実績に基づき算定した実績繰入率により、貸倒懸念債権等の個別債権については回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 奨学還付引当金 奨学還付金制度対象講座の修了生に対する奨学金の支給に備えるため、過去の同講座の修了実績率に基づき算出した支給見込額を計上しております。</p> <p>(追加情報) 当事業年度において新たに一部講座に奨学還付金制度を設けたことに伴い、当事業年度に受講を開始した受講生に対し、将来受講を修了した時点で奨学金を支給することとなりました。</p> <p>これに伴い、当事業年度において奨学還付引当金7,517千円を計上しております。この結果、営業利益及び経常利益、税引前当期純利益は7,517千円減少しております。</p> | <p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 奨学還付引当金 同左</p> |
| 6 売上高の計上基準 | <p>受講料収入については、原則として、受講期間に対応して収益を計上しております。また、大学院大学の入学料収入については、入学手続完了時に収益を計上しております。</p> | <p>受講料収入については、原則として、受講期間に対応して収益を計上しております。また、大学の入学料収入については、入学手続完了時に収益を計上しております。</p> |
| 7 リース取引の処理方法 | <p>リース取引会計基準の改正適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を採用しております。</p> | |
| 8 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 | <p>キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。</p> | 同左 |
| 9 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項 | <p>消費税等の会計処理 税抜方式によっております。</p> | <p>消費税等の会計処理 同左</p> |

【会計方針の変更】

| 前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) |
|---|--|
| <p>(リース取引に関する会計基準)</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当事業年度より、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用しております。</p> <p>これによる損益に与える影響はありません。</p> | |

【注記事項】

(損益計算書関係)

| 前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | | | | | | | | |
|---|---|---------|-------|-------|---|-----------|---------|---|------|
| <p>1 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">928千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">928千円</td> </tr> </table> | 工具、器具及び備品 | 928千円 | 計 | 928千円 | <p>1 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">92千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">92千円</td> </tr> </table> | 工具、器具及び備品 | 92千円 | 計 | 92千円 |
| 工具、器具及び備品 | 928千円 | | | | | | | | |
| 計 | 928千円 | | | | | | | | |
| 工具、器具及び備品 | 92千円 | | | | | | | | |
| 計 | 92千円 | | | | | | | | |
| | <p>2 支払手数料の内容は、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">自己株式手数料</td> <td style="text-align: right;">430千円</td> </tr> <tr> <td>事務手数料</td> <td style="text-align: right;">4,728千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5,158千円</td> </tr> </table> | 自己株式手数料 | 430千円 | 事務手数料 | 4,728千円 | 計 | 5,158千円 | | |
| 自己株式手数料 | 430千円 | | | | | | | | |
| 事務手数料 | 4,728千円 | | | | | | | | |
| 計 | 5,158千円 | | | | | | | | |

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

| 株式の種類 | 前事業年度末 | 増加 | 減少 | 当事業年度末 |
|---------|--------|-----|----|--------|
| 普通株式(株) | 62,649 | 700 | | 63,349 |

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

新株予約権の行使による増加 700株

2 自己株式に関する事項

| 株式の種類 | 前事業年度末 | 増加 | 減少 | 当事業年度末 |
|---------|--------|-------|----|--------|
| 普通株式(株) | 607 | 1,354 | | 1,961 |

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

会社法第165条第2項の規定による定款の定めに基づく自己株式の取得 1,354株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 平成20年6月27日 定時株主総会 | 普通株式 | 62,042 | 1,000 | 平成20年3月31日 | 平成20年6月30日 |

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

| 決議 | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 平成21年6月25日 定時株主総会 | 普通株式 | 利益剰余金 | 46,041 | 750 | 平成21年3月31日 | 平成21年6月26日 |

当事業年度（自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日）

1 発行済株式に関する事項

| 株式の種類 | 前事業年度末 | 増加 | 減少 | 当事業年度末 |
|---------|--------|----|----|--------|
| 普通株式（株） | 63,349 | | | 63,349 |

2 自己株式に関する事項

| 株式の種類 | 前事業年度末 | 増加 | 減少 | 当事業年度末 |
|---------|--------|-------|----|--------|
| 普通株式（株） | 1,961 | 1,822 | | 3,783 |

（変動事由の概要）

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

会社法第165条第2項の規定による定款の定めに基づく自己株式の取得 1,822株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 （千円） | 1株当たり配当額 （円） | 基準日 | 効力発生日 |
|-----------------------|-------|----------------|-----------------|-------------|-------------|
| 平成21年 6月25日 定時株主総会 | 普通株式 | 46,041 | 750 | 平成21年 3月31日 | 平成21年 6月26日 |

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

| 決議 | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額 （千円） | 1株当たり配 当額（円） | 基準日 | 効力発生日 |
|-----------------------|-------|-------|----------------|-----------------|-------------|-------------|
| 平成22年 6月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 利益剰余金 | 59,566 | 1,000 | 平成22年 3月31日 | 平成22年 6月30日 |

（キャッシュ・フロー計算書関係）

| 前事業年度 （自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日） | 当事業年度 （自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日） |
|--|--|
| 1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 （平成21年 3月31日現在） | 1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 （平成22年 3月31日現在） |
| 現金及び預金勘定 2,438,208千円 | 現金及び預金勘定 2,616,817千円 |
| 預入期間が3ヵ月を超える定期 - | 預入期間が3ヵ月を超える定期 - |
| 預金 - | 預金 - |
| 現金及び現金同等物 2,438,208千円 | 現金及び現金同等物 2,616,817千円 |

(リース取引関係)

| 前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) |
|---|--|
| リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外 ファイナンス・リース取引 | |
| 1 リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、 減損損失累計額相当額及び期末残高相当額 該当事項はありません。 | |
| 2 未経過リース料期末残高相当額等 該当事項はありません。 | |
| 3 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却 費相当額、支払利息相当額及び減損損失 | |
| 支払リース料 | 838千円 |
| 減価償却費相当額 | 838千円 |
| 4 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額 法によっております。 | |
| 5 減損損失について リース資産に配分された減損損失はありません。 | |

(金融商品関係)

当事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

(追加情報)

当事業年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は資金運用については短期的な預金等で運用しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

売掛金に係る顧客の信用リスクは販売管理規程に沿ってリスク低減を図っております。

投資有価証券は主として株式であり、出資にあたっては有価証券管理規程に沿って取締役会にて承認されております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません(注)2.参照)。

| | 貸借対照表計上額 (千円) | 時価(千円) | 差額(千円) |
|------------|------------------|-----------|--------|
| (1) 現金及び預金 | 2,616,817 | 2,616,817 | - |
| (2) 売掛金 | 187,925 | 187,925 | - |

(注)1. 金融商品の時価の算定方法

(1) 現金及び預金、並びに(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2. 非上場株式(貸借対照表計上額12,100千円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため上記表中には記載しておりません。

3. 金銭債権の決算日後の償還予定額

| | 1年以内(千円) |
|--------|-----------|
| 現金及び預金 | 2,616,817 |
| 売掛金 | 187,925 |

(有価証券関係)

| 前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) |
|--|--|
| 時価評価されていない有価証券の内容及び貸借対照表計上額 (1) その他有価証券 非上場株式 4,000千円 (注) 貸借対照表計上額は減損処理後の帳簿価額であります。なお、当事業年度において減損処理を行い、投資有価証券評価損1,500千円を計上しております。 | 市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることができないため、時価評価されていない有価証券の内容及び貸借対照表計上額 (1) その他有価証券 非上場株式 12,100千円 |

(デリバティブ取引関係)

| 前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) |
|--|--|
| 当社はデリバティブ取引をおこなっていないため、該当事項はありません。 | 同左 |

(退職給付関係)

| 前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) |
|--|--|
| 該当事項はありません。 | 同左 |

(ストック・オプション等関係)

前事業年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

ストックオプションの内容、規模及びその変動状況

(1) ストックオプションの内容

| 会社名 | 提出会社 | 提出会社 | 提出会社 |
|-------------|---|--|---|
| 決議年月日 | 平成14年6月25日 定時株主総会決議 及び平成14年8月1日 取締役会決議1 | 平成14年6月25日 定時株主総会決議 及び平成14年8月1日 取締役会決議2 | 平成14年6月25日 定時株主総会決議 及び平成14年8月1日 取締役会決議3 |
| 付与対象者の区分及び数 | 取締役3名、使用人32名 | 貢献者・支援者40名 | (株)ブレイクスルーと(株)エル ティエンパワーとの合併に 関する、取締役2名、使用人5 名 |
| 株式の種類及び付与数 | 普通株式 1,370株 | 普通株式 2,060株 | 普通株式 5,845株 |
| 付与日 | 平成14年8月16日 | 平成14年8月16日 | 平成14年8月16日 |
| 権利確定条件 | <p>(1) 新株予約権者は、以下の区分に従って、発行された権利の一部又は全部を行使することが可能となる。なお、行使可能な株式数が1単位の株式数の整数倍でない場合は、端数を四捨五入し、1単位の株式数の整数倍とする。</p> <p>発行日から2年を経過した日から3年目までは、発行新株予約権数の5分の2について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から3年を経過した日から4年目までは、発行新株予約権数の5分の3について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から4年を経過した日から5年目までは、発行新株予約権数の5分の4について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から5年を経過した日から6年目までは、発行新株予約権数の総数について権利を行使することができる。</p> <p>(2) 新株予約権者は、権利行使時においても、当社又は当社の子会社の取締役、監査役もしくは使用人の地位にあることを要す。</p> | <p>(1) 新株予約権者は、以下の区分に従って、発行された権利の一部又は全部を行使することが可能となる。なお、行使可能な株式数が1単位の株式数の整数倍でない場合は、端数を四捨五入し、1単位の株式数の整数倍とする。</p> <p>発行日から2年を経過した日から3年目までは、発行新株予約権数の5分の2について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から3年を経過した日から4年目までは、発行新株予約権数の5分の3について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から4年を経過した日から5年目までは、発行新株予約権数の5分の4について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から5年を経過した日から6年目までは、発行新株予約権数の総数について権利を行使することができる。</p> <p>(2) 新株予約権者は、権利行使時においても、当社に対する支援の関係が継続していることを要す。</p> | <p>(1) 新株予約権者は、発行日から2年を経過した日から6年目までに、発行株式数の全部について権利を行使することができる。</p> <p>(2) 新株予約権者は、権利行使時においても、当社又は当社の子会社の取締役、監査役もしくは使用人の地位にあることを要す。</p> |
| 対象勤務期間 | 定めておりません。 | 定めておりません。 | 定めておりません。 |
| 権利行使期間 | 自 平成16年8月16日 至 平成20年8月15日 | 自 平成16年8月16日 至 平成20年8月15日 | 自 平成16年8月16日 至 平成20年8月15日 |

| 会社名 | 提出会社 | 提出会社 | 提出会社 |
|-------------|--|--|--|
| 決議年月日 | 平成14年6月25日 定時株主総会決議 及び平成14年9月2日 取締役会決議 | 平成15年6月27日 定時株主総会決議 及び平成15年7月14日 取締役会決議 | 平成16年6月28日 定時株主総会決議 及び平成16年6月28日 取締役会決議 |
| 付与対象者の区分及び数 | 使用人1名 | 取締役7名、監査役4名、使用人33名、貢献者・協力者44名 | 取締役6名、監査役3名、使用人33名、貢献者・協力者46名 |
| 株式の種類及び付与数 | 普通株式 115株 | 普通株式 3,285株 | 普通株式 2,785株 |
| 付与日 | 平成14年9月17日 | 平成15年7月14日 | 平成16年7月16日 |
| 権利確定条件 | <p>(1) 新株予約権者は、以下の区分に従って、発行された権利の一部又は全部を行使することが可能となる。なお、行使可能な株式数が1単位の株式数の整数倍でない場合は、端数を四捨五入し、1単位の株式数の整数倍とする。</p> <p>発行日から2年を経過した日から3年目までは、発行新株予約権数の5分の2について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から3年を経過した日から4年目までは、発行新株予約権数の5分の3について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から4年を経過した日から5年目までは、発行新株予約権数の5分の4について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から5年を経過した日から6年目までは、発行新株予約権数の総数について権利を行使することができる。</p> <p>(2) 新株予約権者は、権利行使時においても、当社または当社の子会社の取締役、監査役もしくは使用人の地位にあることを要す。</p> | <p>(1) 新株予約権者は、以下の区分に従って、発行された権利の一部又は全部を行使することが可能となる。なお、行使可能な株式数が1単位の株式数の整数倍でない場合は、端数を四捨五入し、1単位の株式数の整数倍とする。</p> <p>発行日から2年を経過した日から3年目までは、発行新株予約権数の5分の2について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から3年を経過した日から4年目までは、発行新株予約権数の5分の3について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から4年を経過した日から5年目までは、発行新株予約権数の5分の4について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から5年を経過した日から6年目までは、発行新株予約権数の総数について権利を行使することができる。</p> <p>(2) 新株予約権者が、当社の取締役、監査役又は使用人の地位に基づき新株予約権の割当を受けている場合、それら何れの地位も失った場合、その保有する新株予約権は即時失効する。</p> | <p>(1) 新株予約権者は、以下の区分に従って、発行された権利の一部又は全部を行使することが可能となる。なお、行使可能な株式数が1単位の株式数の整数倍でない場合は、端数を四捨五入し、1単位の株式数の整数倍とする。</p> <p>発行日から2年を経過した日から3年目までは、発行新株予約権数の5分の2について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から3年を経過した日から4年目までは、発行新株予約権数の5分の3について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から4年を経過した日から5年目までは、発行新株予約権数の5分の4について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から5年を経過した日から6年目までは、発行新株予約権数の総数について権利を行使することができる。</p> <p>(2) 新株予約権者が、当社の取締役、監査役又は使用人の地位に基づき新株予約権の割当を受けている場合、それら何れの地位も失った場合、その保有する新株予約権は即時失効する。</p> |
| 対象勤務期間 | 定めておりません。 | 定めておりません。 | 定めておりません。 |
| 権利行使期間 | 自 平成16年9月17日 至 平成20年9月16日 | 自 平成17年7月14日 至 平成21年7月13日 | 自 平成18年7月16日 至 平成22年7月15日 |

| | |
|-------------|---|
| 会社名 | 提出会社 |
| 決議年月日 | 平成17年6月28日 定時株主総会決議 及び平成17年6月28日 取締役会決議 |
| 付与対象者の区分及び数 | 取締役10名、監査役3名、使用 人32名、貢献者・協力者39名 |
| 株式の種類及び付与数 | 普通株式 6,085株 |
| 付与日 | 平成17年7月15日 |
| 権利確定条件 | <p>(1) 新株予約権者は、以下の区分に従って、発行された権利の一部又は全部を行使することが可能となる。なお、行使可能な株式数が1単位の株式数の整数倍でない場合は、端数を四捨五入し、1単位の株式数の整数倍とする。</p> <p>発行日から2年を経過した日から3年目までは、発行新株予約権数の5分の2について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から3年を経過した日から4年目までは、発行新株予約権数の5分の3について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から4年を経過した日から5年目までは、発行新株予約権数の5分の4について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から5年を経過した日から10年目までは、発行新株予約権数の総数について権利を行使することができる。</p> <p>(2) 新株予約権者が、当社の取締役、監査役又は使用人の地位に基づき新株予約権の割当を受けている場合、それら何れの地位も失った場合、その保有する新株予約権は即時失効する。</p> |
| 対象勤務期間 | 定めておりません。 |
| 権利行使期間 | 自 平成19年7月15日 至 平成27年7月14日 |

(注) 株式数に換算して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

前事業年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

(ストック・オプションの数)

| 会社名 | 提出会社 | 提出会社 | 提出会社 |
|--|--|--|--|
| 決議年月日 | 平成14年6月25日 定時株主総会決議 及び平成14年8月1日 取締役会決議1 | 平成14年6月25日 定時株主総会決議 及び平成14年8月1日 取締役会決議2 | 平成14年6月25日 定時株主総会決議 及び平成14年8月1日 取締役会決議3 |
| 権利確定前 前事業年度 付与 失効 権利確定 未確定残 | (株) - - - - - | - - - - - | - - - - - |
| 権利確定後 前事業年度 権利確定 権利行使 失効 未行使残 | (株) 660 - 165 495 - | 1,310 - 40 1,270 - | 255 - 60 195 - |

| 会社名 | 提出会社 | 提出会社 | 提出会社 |
|--|---|--|--|
| 決議年月日 | 平成14年6月25日 定時株主総会決議 及び平成14年9月2日 取締役会決議 | 平成15年6月27日 定時株主総会決議 及び平成15年7月14日 取締役会決議 | 平成16年6月28日 定時株主総会決議 及び平成16年6月28日 取締役会決議 |
| 権利確定前 前事業年度 付与 失効 権利確定 未確定残 | (株) - - - - - | 565 - - 565 - | 900 - 5 440 455 |
| 権利確定後 前事業年度 権利確定 権利行使 失効 未行使残 | (株) 115 - - 115 - | 1,510 565 90 10 1,975 | 1,025 440 95 15 1,355 |

| 会社名 | 提出会社 |
|--|--|
| 決議年月日 | 平成17年6月28日 定時株主総会決議 及び平成17年6月28日 取締役会決議 |
| 権利確定前 (株) 前事業年度 付与 失効 権利確定 未確定残 | 3,480 - 5 1,215 2,260 |
| 権利確定後 (株) 前事業年度 権利確定 権利行使 失効 未行使残 | 1,710 1,215 250 5 2,670 |

(単価情報)

| | 平成14年6月25日 定時株主総会決議 及び平成14年8月1日 取締役会決議1 | 平成14年6月25日 定時株主総会決議 及び平成14年8月1日 取締役会決議2 | 平成14年6月25日 定時株主総会決議 及び平成14年8月1日 取締役会決議3 |
|--------------------|--|--|--|
| 権利行使価格 (円) | 50,000 | 50,000 | 50,000 |
| 行使時平均株価 (円) | 48,495 | 48,495 | 48,495 |
| 付与日における公正な評 価単価 | - | - | - |

| | 平成14年6月25日 定時株主総会決議 及び平成14年9月2日 取締役会決議 | 平成15年6月27日 定時株主総会決議 及び平成15年7月14日 取締役会決議 | 平成16年6月28日 定時株主総会決議 及び平成16年6月28日 取締役会決議 |
|--------------------|---|--|--|
| 権利行使価格 (円) | 50,000 | 50,000 | 50,000 |
| 行使時平均株価 (円) | - | 48,495 | 48,495 |
| 付与日における公正な評 価単価 | - | - | - |

| | 平成17年6月28日 定時株主総会決議 及び平成17年6月28日 取締役会決議 |
|--------------------|--|
| 権利行使価格 (円) | 50,000 |
| 行使時平均株価 (円) | 48,495 |
| 付与日における公正な評 価単価 | - |

当事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

ストックオプションの内容、規模及びその変動状況

(1) ストックオプションの内容

| 会社名 | 提出会社 | 提出会社 | 提出会社 |
|-------------|--|--|---|
| 決議年月日 | 平成15年6月27日 定時株主総会決議 及び平成15年7月14日 取締役会決議 | 平成16年6月28日 定時株主総会決議 及び平成16年6月28日 取締役会決議 | 平成17年6月28日 定時株主総会決議 及び平成17年6月28日 取締役会決議 |
| 付与対象者の区分及び数 | 取締役7名、監査役4名、使用人33名、貢献者・協力者44名 | 取締役6名、監査役3名、使用人33名、貢献者・協力者46名 | 取締役10名、監査役3名、使用人32名、貢献者・協力者39名 |
| 株式の種類及び付与数 | 普通株式 3,285株 | 普通株式 2,785株 | 普通株式 6,085株 |
| 付与日 | 平成15年7月14日 | 平成16年7月16日 | 平成17年7月15日 |
| 権利確定条件 | <p>(1) 新株予約権者は、以下の区分に従って、発行された権利の一部又は全部を行使することが可能となる。なお、行使可能な株式数が1単位の株式数の整数倍でない場合は、端数を四捨五入し、1単位の株式数の整数倍とする。</p> <p>発行日から2年を経過した日から3年目までは、発行新株予約権数の5分の2について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から3年を経過した日から4年目までは、発行新株予約権数の5分の3について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から4年を経過した日から5年目までは、発行新株予約権数の5分の4について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から5年を経過した日から6年目までは、発行新株予約権数の総数について権利を行使することができる。</p> <p>(2) 新株予約権者が、当社の取締役、監査役又は使用人の地位に基づき新株予約権の割当を受けている場合、それら何れの地位も失った場合、その保有する新株予約権は即時失効する。</p> | <p>(1) 新株予約権者は、以下の区分に従って、発行された権利の一部又は全部を行使することが可能となる。なお、行使可能な株式数が1単位の株式数の整数倍でない場合は、端数を四捨五入し、1単位の株式数の整数倍とする。</p> <p>発行日から2年を経過した日から3年目までは、発行新株予約権数の5分の2について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から3年を経過した日から4年目までは、発行新株予約権数の5分の3について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から4年を経過した日から5年目までは、発行新株予約権数の5分の4について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から5年を経過した日から6年目までは、発行新株予約権数の総数について権利を行使することができる。</p> <p>(2) 新株予約権者が、当社の取締役、監査役又は使用人の地位に基づき新株予約権の割当を受けている場合、それら何れの地位も失った場合、その保有する新株予約権は即時失効する。</p> | <p>(1) 新株予約権者は、以下の区分に従って、発行された権利の一部又は全部を行使することが可能となる。なお、行使可能な株式数が1単位の株式数の整数倍でない場合は、端数を四捨五入し、1単位の株式数の整数倍とする。</p> <p>発行日から2年を経過した日から3年目までは、発行新株予約権数の5分の2について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から3年を経過した日から4年目までは、発行新株予約権数の5分の3について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から4年を経過した日から5年目までは、発行新株予約権数の5分の4について権利を行使することができる。</p> <p>発行日から5年を経過した日から10年目までは、発行新株予約権数の総数について権利を行使することができる。</p> <p>(2) 新株予約権者が、当社の取締役、監査役又は使用人の地位に基づき新株予約権の割当を受けている場合、それら何れの地位も失った場合、その保有する新株予約権は即時失効する。</p> |
| 対象勤務期間 | 定めておりません。 | 定めておりません。 | 定めておりません。 |
| 権利行使期間 | 自平成17年7月14日 至平成21年7月13日 | 自平成18年7月16日 至平成22年7月15日 | 自平成19年7月15日 至平成27年7月14日 |

(注) 株式数に換算して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

(ストック・オプションの数)

| 会社名 | 提出会社 | 提出会社 | 提出会社 |
|----------------------|--|--|--|
| 決議年月日 | 平成15年6月27日 定時株主総会決議 及び平成15年7月14日 取締役会決議 | 平成16年6月28日 定時株主総会決議 及び平成16年6月28日 取締役会決議 | 平成17年6月28日 定時株主総会決議 及び平成17年6月28日 取締役会決議 |
| 権利確定前 前事業年度 付与 | - | 455 | 2,260 |
| 失効 | - | - | 5 |
| 権利確定 | - | 455 | 1,095 |
| 未確定残 | - | - | 1,160 |
| 権利確定後 前事業年度 | 1,975 | 1,355 | 2,670 |
| 権利確定 | - | 455 | 1,095 |
| 権利行使 | - | - | - |
| 失効 | 1,975 | - | 15 |
| 未行使残 | - | 1,810 | 3,750 |

(単価情報)

| | 平成15年6月27日 定時株主総会決議 及び平成15年7月14日 取締役会決議 | 平成16年6月28日 定時株主総会決議 及び平成16年6月28日 取締役会決議 | 平成17年6月28日 定時株主総会決議 及び平成17年6月28日 取締役会決議 |
|----------------|--|--|--|
| 権利行使価格(円) | 50,000 | 50,000 | 50,000 |
| 行使時平均株価(円) | - | - | - |
| 付与日における公正な評価単価 | - | - | - |

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

| | (単位：千円) | |
|-----------|-------------------------|-------------------------|
| | 前事業年度 (平成21年3月31日現在) | 当事業年度 (平成22年3月31日現在) |
| 繰延税金資産 | | |
| 貸倒引当金 | 615 | 775 |
| 未払事業税否認 | 3,831 | 6,821 |
| 投資有価証券評価損 | 610 | 610 |
| 奨学還付引当金 | 3,059 | 1,343 |
| 繰延税金資産小計 | 8,116 | 9,550 |
| 評価性引当額 | 610 | - |
| 繰延税金資産計 | 7,506 | 9,550 |

繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

| | (単位：千円) | |
|---------------|-------------------------|-------------------------|
| | 前事業年度 (平成21年3月31日現在) | 当事業年度 (平成22年3月31日現在) |
| 流動資産 - 繰延税金資産 | 4,446 | 8,940 |
| 固定資産 - 繰延税金資産 | 3,059 | 610 |

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

| | (単位：%) | |
|--------------------|-------------------------|---|
| | 前事業年度 (平成21年3月31日現在) | 当事業年度 (平成22年3月31日現在) |
| 法定実効税率 | 40.7 | 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の百分の五以下であるため注記を省略しております。 |
| (調整) | | |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目 | 0.6 | |
| 住民税均等割等 | 1.9 | |
| その他 | 0.2 | |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 43.4 | |

(企業結合等関係)

| 前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日) | 当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日) |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 該当事項はありません。 | 同左 |

(持分法損益等)

| 前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日) | 当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日) |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 該当事項はありません。 | 同左 |

【関連当事者情報】

前事業年度（自平成20年4月1日 至平成21年3月31日）

（追加情報）

当事業年度より、「関連当事者の開示に関する会計基準」（企業会計基準第11号 平成18年10月17日）及び「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第13号 平成18年10月17日）を適用しております。

これによる、従来の開示対象範囲への変更はありません。

1 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と関連当事者の取引

財務諸表提出会社の役員及び主要株主等

| 種類 | 会社等の名称 又は氏名 | 所在地 | 資本金又は 出資金 (千円) | 事業の内容 又は職業 | 議決権等の所有 (被所有) 割合(%) | 関連当事 者との関 係 | 取引の内容 | 取引金額 (千円) | 科目 | 期末残高 (千円) |
|--|-------------------|---------|----------------------|-------------------|---------------------------|-------------------|----------------------|--------------|------------|----------------|
| 役員 | 大前研一 | | | 当社代表取締役社長 | 被所有直接 (48.87) | | ストック・オプションの行使に伴う新株発行 | 21,750 | | |
| 主要株主（個人）及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等、及び、役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等 | (株)横浜コンサルティンググループ | 東京都千代田区 | 10,000 | 著作出版・講演等の企画・運営管理等 | | 建物の賃借 | 家賃及び共益費の支払（注1） | 16,642 | 敷金 前払費用 | 2,462 1,456 |

取引条件及び取引条件の決定方針等

- （注）1 契約価格については、不動産鑑定士の意見を参考に、近隣の市場賃料水準を勘案して決定しております。
2 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高（敷金を除く）には消費税等が含まれております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

当事業年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

1 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と関連当事者の取引

財務諸表提出会社の役員及び主要株主等

| 種類 | 会社等の名称 又は氏名 | 所在地 | 資本金又は 出資金 (千円) | 事業の内容 又は職業 | 議決権等の所有 (被所有) 割合(%) | 関連当事 者との関 係 | 取引の内容 | 取引金額 (千円) | 科目 | 期末残高 (千円) |
|--|-------------------|---------|----------------------|-------------------|---------------------------|-------------------|----------------|--------------|------------|----------------|
| 主要株主（個人）及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等、及び、役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等 | (株)横浜コンサルティンググループ | 東京都千代田区 | 10,000 | 著作出版・講演等の企画・運営管理等 | | 建物の賃借 | 家賃及び共益費の支払（注1） | 16,642 | 敷金 前払費用 | 2,462 1,456 |

取引条件及び取引条件の決定方針等

- （注）1 契約価格については、不動産鑑定士の意見を参考に、近隣の市場賃料水準を勘案して決定しております。
2 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高（敷金を除く）には消費税等が含まれております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

| 前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日) | | 当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日) | |
|--------------------------------------|------------|--------------------------------------|------------|
| 1株当たり純資産額 | 44,196.08円 | 1株当たり純資産額 | 46,079.92円 |
| 1株当たり当期純利益金額 | 1,942.66円 | 1株当たり当期純利益金額 | 2,675.97円 |
| 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 | | 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 | |

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

| | 前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日) | 当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日) |
|---|--------------------------------------|--|
| 1株当たり当期純利益金額 | | |
| 当期純利益(千円) | 120,080 | 161,418 |
| 普通株主に帰属しない金額 | | |
| 普通株式に係る当期純利益(千円) | 120,080 | 161,418 |
| 期中平均株式数(株) | 61,812 | 60,321 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要 | | 平成16年6月28日定時株主総会決議及び平成16年6月28日取締役会決議によるストックオプション1,810株、平成17年6月28日定時株主総会決議及び平成17年6月28日取締役会決議によるストックオプション4,910株。 |

(重要な後発事象)

| 前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日) | 当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日) |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 該当事項はありません。 | 同左 |

【附属明細表】

【有価証券明細表】

有価証券の金額が資産の総額の100分の1以下であるため、財務諸表等規則第124条の規定により記載を省略しております。

【有形固定資産等明細表】

| 資産の種類 | 前期末残高 (千円) | 当期増加額 (千円) | 当期減少額 (千円) | 当期末残高 (千円) | 当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (千円) | 当期償却額 (千円) | 差引当期末 残高 (千円) |
|-----------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------------------------------|---------------|---------------------|
| 有形固定資産 | | | | | | | |
| 建物 | 128,782 | - | - | 128,782 | 25,491 | 5,987 | 103,291 |
| 構築物 | 1,085 | - | - | 1,085 | 634 | 74 | 450 |
| 機械及び装置 | 71,286 | - | 237 | 71,048 | 65,590 | 1,312 | 5,458 |
| 車両運搬具 | 4,844 | - | - | 4,844 | 2,334 | 1,175 | 2,509 |
| 工具、器具及び備品 | 177,532 | 15,429 | 1,203 | 191,758 | 146,220 | 19,140 | 45,538 |
| 土地 | 16,577 | - | - | 16,577 | - | - | 16,577 |
| 有形固定資産計 | 400,108 | 15,429 | 1,440 | 414,097 | 240,270 | 27,690 | 173,826 |
| 無形固定資産 | | | | | | | |
| 借地権 | 84,671 | - | - | 84,671 | - | - | 84,671 |
| 商標権 | 5,867 | 645 | - | 6,512 | 2,455 | 673 | 4,057 |
| 特許権 | 1,391 | - | - | 1,391 | 188 | 173 | 1,203 |
| ソフトウェア | 218,431 | 61,921 | - | 280,352 | 147,132 | 43,229 | 133,220 |
| 電話加入権 | 1,335 | - | - | 1,335 | - | - | 1,335 |
| ソフトウェア仮勘定 | 3,864 | 64,836 | 43,778 | 24,921 | - | - | 24,921 |
| 無形固定資産計 | 315,561 | 127,402 | 43,778 | 399,185 | 149,776 | 44,077 | 249,409 |

(注) 当期増加額及び当期減少額のうち主なものは次のとおりであります。

| | | |
|-------------|-----------------|----------|
| 1 工具、器具及び備品 | サーバー増強による増加 | 8,390千円 |
| | 償却済資産の除却による減少 | 1,203千円 |
| 2 ソフトウェア | 遠隔教育システム開発による増加 | 32,882千円 |
| | 社内業務システム開発による増加 | 29,038千円 |
| 3 ソフトウェア仮勘定 | 遠隔教育システム開発による増加 | 35,469千円 |
| | 社内業務システム開発による増加 | 29,247千円 |

【引当金明細表】

| 区分 | 前期末残高 (千円) | 当期増加額 (千円) | 当期減少額 (目的使用) (千円) | 当期減少額 (その他) (千円) | 当期末残高 (千円) |
|---------|---------------|---------------|-------------------------|------------------------|---------------|
| 貸倒引当金 | 1,513 | 409 | - | 18 | 1,904 |
| 奨学還付引当金 | 7,517 | 659 | 3,900 | 976 | 3,300 |

(注) 1 貸倒引当金の一般債権に対する貸倒引当金の洗替による戻し入れ額は18千円であります。

2 奨学還付引当金の当期減少額(その他)の内訳は洗替による取崩額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

| 区分 | 金額(千円) |
|------|-----------|
| 現金 | 135 |
| 預金 | |
| 普通預金 | 592,611 |
| 外貨預金 | 1,073 |
| 定期預金 | 2,008,085 |
| 信託口座 | 11,211 |
| 別段預金 | 3,700 |
| 預金小計 | 2,616,682 |
| 合計 | 2,616,817 |

売掛金

(イ) 相手先別内訳

| 相手先 | 金額(千円) |
|-----------------|---------|
| 三菱UFJニコス株式会社(注) | 49,097 |
| 株式会社ジェーシービー(注) | 38,032 |
| 株式会社セディナ(注) | 35,328 |
| 株式会社アルク教育社 | 7,812 |
| 株式会社プレジデント社 | 7,087 |
| その他 | 50,567 |
| 合計 | 187,925 |

(注) クレジットカード各社の売掛金は、主に個人受講料によるものであります。

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

| 前期繰越高 (千円) | 当期発生高 (千円) | 当期回収高 (千円) | 次期繰越高 (千円) | 回収率(%) | 滞留期間(日) |
|---------------|---------------|---------------|---------------|------------------------------------|------------------------------|
| (A) | (B) | (C) | (D) | $\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$ | (A) + (D) 2 (B) 365 |
| 181,948 | 1,053,273 | 1,047,296 | 187,925 | 84.8 | 64 |

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

仕掛品

| 品目 | 金額(千円) |
|----------------|--------|
| 4月以降放映番組制作費 | 3,608 |
| 大学コンテンツ | 43,246 |
| G M B Aコンテンツ | 14,040 |
| オープンカレッジ用コンテンツ | 2,965 |
| その他コンテンツ | 2,749 |
| 大前通信CD-ROM | 366 |
| その他CD-ROM | 521 |
| 合計 | 67,498 |

貯蔵品

| 品目 | 金額(千円) |
|---------|--------|
| 教材及び販促品 | 647 |
| 合計 | 647 |

買掛金

| 相手先 | 金額(千円) |
|----------------|--------|
| Axon, Inc. | 2,882 |
| 株式会社アルクネットワークス | 567 |
| 株式会社教育基礎研究所 | 385 |
| その他 | 542 |
| 合計 | 4,376 |

前受金

| 相手先 | 金額(千円) |
|--------------|---------|
| 大学授業料前受金 | 258,460 |
| 向研会会費前受金 | 55,705 |
| 大前経営塾授業料前受金 | 44,984 |
| BOND大学授業料前受金 | 22,583 |
| その他 | 24,287 |
| 合計 | 406,021 |

(3)【その他】

当事業年度における各四半期会計期間に係る売上高等

| | 第1四半期 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日) | 第2四半期 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日) | 第3四半期 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日) | 第4四半期 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日) |
|-------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--|--------------------------------------|
| 売上高 (千円) | 487,942 | 452,312 | 424,169 | 561,981 |
| 税引前四半期純利益金額 (千円) | 115,237 | 82,084 | 4,931 | 77,061 |
| 四半期純利益金額 (千円) | 68,505 | 46,329 | 1,580 | 45,002 |
| 1株当たり四半期純利益金額 (円) | 1,118.10 | 764.39 | 26.47 | 755.50 |

第6【提出会社の株式事務の概要】

| | |
|---|--|
| 事業年度 | 4月1日から3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎決算期の翌日から3か月以内 |
| 基準日 | 3月31日 |
| 剰余金の配当の基準日 | 9月30日、3月31日 |
| 1単元の株式数 | |
| 単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料 | |
| 公告掲載方法 | 当社の公告は、電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします。なお、公告のホームページアドレスは「 http://www.bbt757.com 」であります。 |
| 株主に対する特典 | 毎年9月30日、3月31日現在の株主名簿に記載された株主に対し、保有株式数に応じて、株主優待対象の教育プログラムを優待価格で提供いたします。 1株以上 対象プログラムの10%割引 5株以上 対象プログラムの20%割引 |

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第11期（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）平成21年6月26日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成21年6月26日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書、四半期報告書の確認書

第12期第1四半期（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）平成21年8月7日関東財務局長に提出

第12期第2四半期（自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日）平成21年11月6日関東財務局長に提出

第12期第3四半期（自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日）平成22年2月8日関東財務局長に提出

(4) 自己株券買付状況報告書

平成21年7月7日、平成21年8月6日、平成21年9月7日、平成21年10月2日、平成21年12月7日、平成22年6月4日関東財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成21年6月25日

株式会社 ビジネス・ブレイクスルー
取締役会 御中監査法人 トーマツ

| | | |
|----------------|-------|-------|
| 指定社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 井上 雅彦 |
|----------------|-------|-------|

| | | |
|----------------|-------|-------|
| 指定社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 後藤 孝男 |
|----------------|-------|-------|

| | | |
|----------------|-------|-------|
| 指定社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 長島 拓也 |
|----------------|-------|-------|

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビジネス・ブレイクスルーの平成20年4月1日から平成21年3月31日までの第11期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ビジネス・ブレイクスルーの平成21年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ビジネス・ブレイクスルーの平成21年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社ビジネス・ブレイクスルーが平成21年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

() 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年6月29日

株式会社 ビジネス・ブレイクスルー
取締役会 御中有限責任監査法人トーマツ

| | | |
|--------------------|-------|-------|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 井上 雅彦 |
|--------------------|-------|-------|

| | | |
|--------------------|-------|-------|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 長島 拓也 |
|--------------------|-------|-------|

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビジネス・ブレイクスルーの平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第12期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ビジネス・ブレイクスルーの平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ビジネス・ブレイクスルーの平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者であり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社ビジネス・ブレイクスルーが平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- () 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。